

平成21年度事業報告

(財)日本バスケットボール協会
平成22年6月20日

事業報告

◆平成21年度 JBA方針

I～II

1. 技術の調査研究

●強化本部会

P. 1～3

(1) 選手強化

①男子強化

P. 3～6

②女子強化

P. 7～9

(2) エンデバー

P. 9～10

(3) 味の素ナショナルトレーニングセンター

P. 10～11

(4) 医科学研究

P. 11～12

2. 競技会の開催

(1) 国内競技会

P. 13～21

(2) 国体部

P. 21～23

(3) 日本スポーツマスターズ大会

P. 23～24

3. 国際競技会の開催及び代表チームの派遣

(1) 国際（国内開催）

P. 24～25

(2) 国際（国外開催）

P. 25～29

4. 国際関係

P. 30～31

5. 講習会及び指導者養成

(1) 公認スポーツ指導者養成

P. 31

(2) 規則・審判事業

P. 31～35

(3) 公認審判審査

P. 35

6. 施設、用具の認定

P. 36

7. 総務

P. 36

8. 財務

P. 36～37

9. 広報

P. 37～39

10. 普及編成

P. 39

11. 企画（事業・企画）

P. 40～42

12. 特別委員会

P. 43

2008年11月12日

“GO FOR OLYMPIC！” 「オリンピック出場へのひたむきな努力を」

今、日本バスケットボール界の最大にして、最高の目標を設定すれば、それは「オリンピック出場復活」以外にはない。

男子、女子のオリンピック出場復活は日本スポーツ界におけるバスケットボール競技のメジャー化への必須条件である。

会長が就任に際し示された協会運営の基本方針は、「TEAM JAPAN」のオリンピック出場復活を徹底して追及するという事であり、それに対するひたむきな努力こそが、我々に一番求められているものである。

登録競技者62万人の心をひとつにし、全てのバスケットボールマンが一丸となって、この目標達成に邁進することこそが、ここ数年停滞し、空白期間の生じることさえ余儀なくされた日本バスケットボール界の真の正常化につながる道である。

ミニ、中学生、高校生、大学生、そしてトップリーグの国内各種競技会、更には、各カテゴリーの国際大会も含め、全てはこのオリンピック出場復活に照準を合わせたものと覚悟し、努力を積み重ねていくことが、我々日本バスケットボール協会の使命であると認識したい。

「次年度の事業計画の骨太な指針」

1. 財務の健全運営は、全ての事業遂行の根幹にあり、規律ある財務管理に徹底して努めなくてはならない。

一方、現下のスポーツ団体における経済環境は国内外においても極めて厳しいものとなっており、各種の事業展開を実行しつつ、安定した財務基盤の構築を図るには、多くの困難が予想される。

個人登録料に過度に依存しない多角的な事業収入の方策も検討し、日本バスケットボール競技のコンテンツの充実と向上に、一層の努力を傾注し、協賛企業等の積極的な支援に応え得る体制を整えていきたい。

2. 「強化」と連携した国際大会等の「事業展開」の実施。

シーズン中も含め、一年を通して強化を主眼とした国際大会等、各種事業の開催を展開し、中・長期的な財務基盤の安定にも貢献させたい。これら事業の生産性、効率性を高める為には専門的なスポーツマーケティンググループとの連携が必要不可欠であり、長期的スタンスで、パートナーシップの確立を急ぐ必要がある。

3. 「FIBA」及び「FIBAアジア」との連携強化

バスケットボール競技の一層の国際的普及と質の高いプロフェッショナル競技としての事業展開を意欲的に進めるFIBA(国際バスケットボール連盟)のコンセプトに日本バスケットボール界が遅れることなく、柔軟に対応し、国際的な潮流の中においても、凛とした日本バスケットボール界の存在感を確立させたいものである。

4. 強い「TEAM JAPAN」の復活へ、ひたむきな努力を重ね、オリンピック大会への出場をリードする事が日本バスケットボール協会の最大の使命であることは述べてきた通りである。

①発掘から育成、そして競技力向上へ、各カテゴリーの再編成。(国体少年の部も含め)

②ヘッドコーチの専任制及びエンデバー指導現場とナショナルコーチングスタッフのコラボレーションによる一貫したシステムの構築。

③アジア地区を中心とした諸外国チームに関する情報収集能力の向上と機能強化。
アジア地区を中心とした海外チームの情報収集能力の向上は国際大会を勝ち抜く為には必須条件であり、その機能の強化。

④各層指導者の質的向上のため、日体協、JBA等の公認資格取得の促進。

5. 「JBL」及び「WJBL」再編と「bjリーグ」を含めたプロ化への検討。
(別途プロジェクトチームにて検討を開始する。)

6. 日本バスケットボール協会の包括的活動にマッチした寄附行為及び関連規定の整備。
(別途プロジェクトチームにて検討を開始する。)

以上のことを実現することにより、日本バスケットボール界を支える登録競技者及び愛好者の増加を図る。

“WE CAN DO IT!!”

以上

1. 技術の調査研究

●強化本部活動報告

1. 中長期活動方針

- (1) オリンピック・世界選手権大会出場に向け徹底追及する。
- (2) 中長期計画を策定・推進する。

<男子>

- ① 第25回アジア選手権大会(8月・中国開催)は、第1回東アジア選手権大会終了後、体調不良により解約となったデイビッド・HCIに代わり、急遽、倉石部長が指揮を取りトルコ世界選手権大会の出場権を獲得することが目標であったが、結果は10位と残念な結果に終わった。

この大会は、地元中国がイランに敗れ、ベスト10は、イラン、中国、ヨルダン、レバノン、台北カタル、韓国、フィリピン、カザフスタン、日本の順で、前回同様、西アジアの台頭が著しく、日本の敗因は、HCの変更と米国遠征→ジョーンズカップ→アジア選手権大会と続いたハードスケジュールも一因と思われる。

- ② 第1回U-16アジア選手権大会(11月・マレーシア開催)は、ドイツ世界選手権大会の予選であったが、中国・イランの高さ、韓国・フィリピン・台北の個人技に及ばず、6位に終わった。

ベスト5は、中国、韓国、イラン、フィリピン、台北の順となり、この年代の西アジアは、まだ準備不足で、東・東南アジアは、ずば抜けた強さの中国を筆頭に、他国は実力が拮抗しているが、日本は外角のシュートが得点源で特に個人技・リバウンド力で劣った。

* 日本は、2006年以降、国際試合数が極端に少なかった事の原因もあるが、アジア強豪国の情報収集や日本独自のバスケットボールの構築に遅れを取った事は間違いなく、平成22年度は、アジア強豪国を徹底的に調査・分析し、チーム一丸と成って勝てる逞しいチーム作りに邁進する。

* アジア強豪国は、東、東南、中央、西、湾岸 SZ、各々にタイプの違いが有り、新スタッフの就任と同時に、速さにコントロールを加えた日本の進むべき複数のスタイルを一日も早く固めアジアの覇者復活を目指し、最大限の努力を要する。

<女子>

- ① 第23回アジア選手権大会(9月・インド開催)は、多くの体調不良者が出た苦しい大会であったが、目標の3位入賞を果たし、チェコ世界選手権大会への出場権を獲得した。

ベスト4は、中国、韓国、日本、台北の順で、4カ国の実力差に極端な開きは無いが、日本は、後半の弱さに加え、中国のポストプレー、韓国の3ポイント、台北の若返り等の対策が必要になる。

- ② 第1回U-16アジア選手権大会(11月・インド開催)において、目標の2位入賞を果たし日本代表と共にフランス世界選手権大会の出場権を獲得した。

決勝は、大型チームの中国に対し、第4クォーター半ばまで接戦をしたが、最後、脚が止まり、86-99で敗れた。前回のU-18に続いて世界選手権大会出場を果たし将来に向けた強化体制の構築がますます重要に成る。

* 本年開催されるチェク世界選手権大会では、世界での位置付けを一つでも上位のランクを目指し、来年開催されるアジア選手権大会で、ロンドンオリンピックの出場権を獲得することが最大の目標となるが、アジア対策を含め、海外遠征等で更なる実力アップを果たす。

<男子・女子>

* 日本代表(U-24 含む)にU-18・16 を加えた一貫指導体制を一日も早く構築し、味トレを強化拠点とした、リオオリンピックまでの中長期強化計画を確立し実施に移す。

2. 短期活動方針

(1) 国際大会カテゴリー変更に伴う強化体制を推進する。

- ・男女各カテゴリー共に、変更に伴う強化体制を推進出来た。
- ・男子は、U-24 を日本代表に含め強化した成果が出たため継続する。

(2) 国際大会日程への国内対応と協力体制を確保する。

- ・JBL、WJBLの協力により、スタッフ・選手派遣、強化日程等の調整が図れた。
- ・U-19 女子世界選手権大会では、5名の選手が不参加になった。
- ・平成 22 年度以降、日本代表は協会の指導性が発揮出来るよう覚書等の締結を検討中であるが、U-18・16 は、2～3年先までを見越した、国際・国内の日程調整等に取り組む必要がある。

(3) アジア地区を中心とした、諸外国の情報収集と対策を実施する。

- ・平成 21 年度から、JOC専任情報科学スタッフを 1 名配置し、アジア選手権、ヨーロッパ選手権等に派遣したが、平成 22 年度は、更に 1 名の情報科学スタッフを増員する予定。
- ・情報収集分析チームを組み、世界各国の戦略・戦術の調査・分析、情報管理、発信方法の研究等バスケットボール界の発展に寄与する。

(4) 男女日本代表HCの専任制と一貫指導体制の確立を図る。

- ・平成 21 年度から、HCの専任制を採用したが、HCから要望されたACの選考には、チーム・個人の事情もあり変更を余儀なくされた。
- ・全カテゴリー別スタッフの体制を整備したが、平成 22 年度以降、更に一貫性ある強化体制を図れるよう注力していく。

(5) エンデバー体制の今後の展開を立案する。

- ・エンデバー委員会で推進中。

(6) 指導者育成制度の今後の展開を立案する。

- ・指導者育成委員会で推進中。

(7) JBA事業への貢献、協力活動を行う。

- ・企画部主催による平成 22 年度男女国際招待試合の開催に向け、国際部と連携の上、男子レバノン、女子ニュー

ジーランドを招待国として内定した。

(8) 味トレを最大限活用する。

- ・味トレ年間利用率は、各カテゴリー等の協力を得て、平成20年度の66%に対し、平成21年度は90%と、全競技団体年間平均利用率85%を上回る事が出来た。。
- ・平成22年度は、テクニカルルームを、ハードディスク化、情報機能化に改修する予定。

(9) 強化本部の組織を改正・見直す。

- ・平成22年度は強化本部に味トレの位置付けを明確にし、調査・分析チームを設置の予定。
- ・また、男子は、技術サポート部会を配置し、日本代表とU-24を日本代表強化G、U-18とU-16をジュニア代表強化Gとして連携強化を図る予定。

(1) 選手強化

① 男子強化活動

平成21年度は、日本代表チーム強化の一環として、男子代表チームを始めとして、アンダーエイジカテゴリーを含む男子強化一貫指導への取り組みを図った。

日本代表ヘッドコーチとして、アメリカからデイビッド・ホブス氏を招へいして、代表チームの指揮を執ってもらう他に、アンダーエイジカテゴリーの合宿を視察、指導も行なってもらうこととした。東アジア選手権大会(愛知県小牧市)にて、第2位となりFIBAアジア選手権の出場権を得たが、その後、ホブス氏は、体調不良によりヘッドコーチを辞任することとなった。

後任として、ホブス氏の指導現場に一番近く、ホブスイズムを一番継承しているとの観点より、倉石男子強化部長がヘッドコーチに就任。ジョーンズカップやFIBAアジア選手権大会に臨んだ。しかし、結果は、FIBAアジア選手権10位と過去最低の成績に終わった。

アンダーカテゴリーでは、U-16が第1回FIBAアジアU-16男子選手権大会に参加し、6位という成績を残した。

男子強化としては、平成22年度に向け、新たな日本代表ヘッドコーチの体制の下、まずはアジアで勝つことをモットーにして積極的な強化活動を行ってゆくことと、今年度実施した育成強化をさらに充実させるために、育成部との連携をさらに強化して、一貫した強化体制の構築し取り組んでゆく。

フル代表/ユニバーシアード代表

専任ヘッドコーチ(デイビッド Aホブス氏)を決定。日本代表カテゴリーの「日本代表」(トップ代表)と「ユニバーシアード代表」(セカンド代表)を1つのカテゴリーとし、若手の日本代表育成に積極的に取り組んだ。

<平成21年度成績>

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ➢ 第1回東アジア選手権(東アジア地区予選) | 2位 (FIBAアジア選手権出場) |
| ➢ 第31回ウィリアム・ジョーンズカップ(台北市) | 9位 |
| ➢ 第25回FIBAアジア選手権(中国・天津市) | 10位 |
| ➢ 第25回ユニバーシアード競技大会(セルビア) | 19位 |
| ➢ 第5回東アジア競技大会(ホンコン・チャイナ) | 3位 |
| ➢ 第1回FIBAアジアU-16男子選手権大会(マレーシア) | 6位 |

1. 日本代表活動

期間	活動内容	場所	
4/9 ~ 4/12	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
4/15 ~ 4/19	第2次強化合宿	味トレ	東京都北区
4/22 ~ 4/26	第3次強化合宿	味トレ	東京都北区
4/29 ~ 5/3	第4次強化合宿	味トレ	東京都北区
5/6 ~ 5/10	第5次強化合宿	味トレ	東京都北区
5/13 ~ 5/17	第6次強化合宿	味トレ	東京都北区
5/20 ~ 6/7	第7次強化合宿	味トレ	東京都北区
6/8 ~ 6/14	東アジア選手権大会	愛知	小牧
7/6 ~ 7/7	第8次強化合宿	味トレ	東京都北区
7/8 ~ 7/16	第9次強化合宿	アメリカ	
7/17 ~ 7/27	第31回ジョーンズカップ	チャイニーズ・タイペイ	
7/31 ~ 8/3	第10次強化合宿	味トレ	東京都北区
8/4 ~ 8/17	第25回FIBAアジア選手権大会	中国	天津市
11/8 ~ 11/10	第11次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/22 ~ 11/24	第12次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/29 ~ 12/12	東アジア競技大会	ホンコン・チャイナ	

日本代表チームは、男子代表チーム候補選手としての候補選手の選考、FIBAアジア選手権大会の予選である『第1回東アジア選手権大会』でのFIBAアジア選手権大会への出場権獲得まで、ホップスコーチの下で行なった。その後、氏の健康上の理由により、FIBAアジア選手権は倉石氏、東アジア競技大会は小野氏と、都度、大会ごとの指揮を依頼することとなった。

2. 日本代表活動【ユニバーシアード】

期間	活動内容	場所	
4/17 ~ 4/19	第1次強化合宿	東海大学	伊勢崎キャンパス
4/24 ~ 4/29	第2次強化合宿	東海大学	伊勢崎キャンパス
6/5 ~ 6/7	第3次強化合宿	味トレ	東京都北区
6/12 ~ 6/14	第4次強化合宿	味トレ	東京都北区
6/19 ~ 6/21	第5次強化合宿	味トレ	東京都北区
6/24 ~ 6/26	第6次強化合宿	味トレ	東京都北区
6/27 ~ 7/14	第25回ユニバーシアード大会	セルビア	ベオグラード
2/5 ~ 2/7	第7次強化合宿(育成強化)	味トレ	東京都北区
2/19 ~ 2/21	第8次強化合宿(育成強化)	味トレ	東京都北区
2/26 ~ 2/28	第9次強化合宿(育成強化)	大阪	大阪商業大学
3/4 ~ 3/6	第10次強化合宿(育成強化)	味トレ	東京都北区

3/11 ~ 3/14	第11次強化合宿(育成強化)	味トレ	東京都北区
-------------	----------------	-----	-------

ユニバーシアードは、セルビア大会に向けた強化合宿と、次期を担う世代の強化合宿を実施した。ユニバーシアード・セルビア大会は26チーム中19位に終わった。

次期を担う世代の強化合宿は、大学生を中心に高校生6名を含む40名からスタートした。その中で、選抜を行い、集中的な強化を実施した。

3. U-18 代表

期間	活動内容	場所	
5/14 ~ 5/17	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
8/28 ~ 8/30	第2次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/10 ~ 11/12	第3次強化合宿	味トレ	東京都北区
3/24 ~ 3/28	第4次強化合宿	味トレ	東京都北区

2009年度は、国際大会が開催されない年であったが、強化の狭間をつくることは得策ではないとの観点から、U-18男子チームの強化活動を行なった。2010年度に開催されるFIBAアジアU-18男子選手権大会へ繋げるための活動であった。

4. U-16 代表

期間	活動内容	場所	
8/27 ~ 8/29	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
10/10 ~ 10/12	第2次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/4 ~ 11/9	第2回NOKIAフィリピン招待大会	フィリピン	セブ
11/10 ~ 11/12	第4次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/19 ~ 11/29	第1回FIBAアジアU16男子選手権大会	マレーシア	ジョホールバル

11月に開催される「U-16FIBAアジア選手権」に向けての強化活動を行った。

FIBAとして正式にU-17世界選手権大会が定められた、そのアジアに於ける予選を兼ねた大会であった。結果としては、12チーム中、6位であった。

高校受験から高校の新生となるバスケットボール活動の薄くなる世代の選手で編成するために、強化の対策と、サポート体制の見直しが必要である。

5. アジアビーチゲームズ

期間	活動内容	場所	
10/24~10/26	第1回アジアユースゲームズ(3on3)	シンガポール	

昨年度開催された『第1回アジアビーチゲームズ』に引き続きの3on3の大会であり、2010年度開催予定の『第1回ユースオリンピックゲームズ』の前年度開催となるアジアでの大会であった。選抜チームを組んで大会に臨んだが、予選大会で2勝2敗となり、予選敗退となった。今後、FIBAを中心に、3on3の大会等が実施されてゆく中で、今後の取り組みや派遣(選手選考なども含め)への対応を検討する

6. Basketball without Borders(国境なきバスケットボール)

期間	活動内容	場所	
----	------	----	--

7/30 ~ 8/2	第5回 Basketball without Borders	中国・北京市
------------	--------------------------------	--------

FIBA と NBA の共催による Basketball without Borders (国境なきバスケットボール・バスケットボール・ウィズアウト・ボーダーズ) に、次の 4 名の推薦が承認され、参加した。

- 田中 大貴 (長崎県立長崎西高等学校)
- 国本 裕也 (美濃加茂高等学校)
- 岡部 健太 (前橋育英高等学校)
- 笹原 祐樹 (日本大学山形高等学校)

7. 男子強化委員会開催

開催日	場所
5/15	TKP 代々木ビジネスセンター
5/30	味の素ナショナルトレーニングセンター
6/13	愛知県青年会館・第 13 会議室
6/19	品川イーストタワー・21 階会議室
7/3	JBL 事務局・会議室
8/18	品川イーストタワー・21 階会議室
10/5	岸記念体育会館 504 会議室
11/16	岸記念体育会館 103 会議室
12/21	岸記念体育会館 101 会議室
1/6	岸記念体育会館 505 会議室
2/8	岸記念体育会館 103 会議室
3/8	岸記念体育会館 504 会議室

②女子強化

【総括】

今年度からヘッドコーチを専任制とし、中川文一氏を招聘して活動を開始した。

来る2012年ロンドンオリンピック出場を見据え、今年度は、日本代表が出場する「FIBA アジア選手権」と今回が第1回大会となる「U-16FIBA アジア選手権」、両大会での世界選手権出場権獲得が最大のミッションとなったが、上記大会を含め「アジアユースゲームズ(U-16・3on3 大会)」での優勝、ユニバーシアードでの過去最高成績と、女子強化部としては一定の成果を挙げたものとする。

ただし、各大会開催の日程がなかなか決まらなかったり変更になるなど、強化スケジュールの決定がままならず、派遣元チームへの影響も大きかった。国際部との連携をより一層密にしてFIBA及びFIBAアジアへ大会日程の早急な決定を働きかけ、強化活動がスムーズに進められるよう努力していきたい。

◆FIBA アジア選手権

期間	活動内容	場所	
4/1(水)～4/10(金)	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
4/15(水)～4/24(金)	第2次強化合宿	味トレ	東京都北区
5/3(日)～5/9(土)	第3次強化合宿	味トレ	東京都北区
8/3(月)～8/12(水)	第4次強化合宿	味トレ	東京都北区
8/16(日)～8/22(土)	第5次強化合宿	味トレ	東京都北区
8/23(日)～8/29(土)	第6次強化合宿(海外遠征)	ニュージーランド	
9/2(水)～9/13(日)	第7次強化合宿	味トレ	東京都北区
9/14(月)～9/16(水)	第8次強化合宿(海外遠征)	インド	
9/17(木)～9/24(木)	第23回FIBA アジア選手権兼FIBA 世界選手権アジア地区予選	インド	チェンナイ

チャイニーズ・タイペイの開催返上によって強化スケジュールの大幅な変更を余儀なくされたものの、ケガなどで選出を見合わせていた選手を招集することができた。

大会では多くの体調不良者を出し過酷な環境であったものの、3位決定戦でチャイニーズ・タイペイを下して3位となり、世界選手権出場権を獲得した。

◆ウィリアム・ジョーンズカップ

期間	活動内容	場所	
6/12(金)～6/21(日)	第1次強化合宿	味トレ／日本航空	東京都北区／大田区
7/5(日)～7/10(金)	第2次強化合宿	アイシン・エイ・ダブリュ	愛知県安城市
7/11(日)	第3次強化合宿(海外遠征)	チャイニーズ・タイペイ	
7/12(月)～7/16(木)	ウィリアム・ジョーンズカップ	チャイニーズ・タイペイ	

ロンドンオリンピック以降を見据えた若手選手の強化と位置づけて活動を行った。

予選リーグ緒戦でチャイニーズ・タイペイを下したものの、4チーム中3位で終了した。

◆東アジア競技大会

期間	活動内容	場所	
11/30(月)	第1次強化合宿(海外遠征)	ホンコン・チャイナ	
12/2(水)~12/11(金)	東アジア競技大会	ホンコン・チャイナ	

ロンドンオリンピック以降を見据えた若手選手の強化と位置づけて、ジョーンズカップに出場した選手を中心にチーム編成を行った。

予選リーグで中国を破ったものの、最終順位は3位で終了した。

◆U-22

期間	活動内容	場所	
5/8(金)~5/10(日)	第1次強化合宿	富士通	神奈川県川崎市
6/12(金)~6/21(日)	第2次強化合宿	味トレ/日本航空	東京都北区/大田区
6/27(土)~6/30(火)	第3次強化合宿(海外遠征)	チャイニーズ・タイペイ	
7/1(水)~7/11(土)	ユニバーシアード競技大会	セルビア	プラチスラバ

2次リーグ進出まであとわずかというところでセルビアに敗れたものの、史上最高の9位となった。

チーム組織のあり方などで他国の手本となるチームであると、FIBA から高い評価を得た。

◆U-18

期間	活動内容	場所	
9/14(月)~9/16(水)	選考合宿	味トレ	東京都北区
10/10(土)~10/12(月)	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
3/27(土)~4/4(日)	第2次強化合宿(海外遠征)	リトアニア	

今年度は国際大会が行われないため、来年のU-18FIBAアジア選手権に向けての強化を行った。

◆U-16

期間	活動内容	場所	
8/24(月)	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
8/25(火)~9/2(水)	第2次強化合宿(海外遠征)	アメリカ	USBA
9/14(月)~9/16(水)	第3次強化合宿	味トレ	東京都北区
10/10(土)~10/12(月)	第4次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/21(土)~11/26(木)	第5次強化合宿	味トレ	東京都北区
11/27(金)~11/29(日)	第2次強化合宿(海外遠征)	インド国内	
11/30(月)~12/6(日)	第1回FIBAアジアU-16選手権 兼U-17FIBA世界選手権アジア地区予選	インド	プネー

このカテゴリでは初めての大会であった。

大会運営上、宿舎が途中で移動になるなどのハプニングはあったものの、チームとしては他国を寄せ付けぬ戦いぶりで決勝まで進み、世界選手権出場権を獲得した。決勝では終盤まで中国と競り合ったものの最後で力尽き、2位となった。

◆アジアユースゲームズ(U-16)

期間	活動内容	場所	
6/28(日)～6/29(月)	第1次強化合宿	味トレ	東京都北区
7/1(水)～7/4(土)	第1回アジアユースゲームズ(3on3)	シンガポール	

強化期間としては直前合宿のみという急造チームであったが、各選手のポテンシャルが非常に高く、決勝で中国を接戦の末に下し、記念すべき第1回大会を優勝で飾った。

◆女子強化部会開催

日にち	場所
5/14(木)	TKP 代々木ビジネスセンター2号館 24C
6/22(月)	岸記念体育会館 102 会議室
8/10(月)	岸記念体育会館 504 会議室
9/10(木)	岸記念体育会館 504 会議室
10/19(月)	岸記念体育会館 504 会議室
11/16(月)	岸記念体育会館 504 会議室
12/14(月)	岸記念体育会館 505 会議室
1/12(火)	渋谷ホームズ 集会室
2/18(木)	代々木第二体育館 西控室
3/15(月)	岸記念体育会館 101 会議室

(2)エンデバー

1) エンデバー委員会活動報告

a.概要

2002年、策定された「エンデバー制度」は、その活動実施の形態がほぼ全国的に定着してきていると思える。

2009年度の活動目標は「エンデバープロジェクト」＝「一貫指導システム」にもとづいて、各カテゴリーの円滑なる事業展開と定め、スタートをきった。エンデバー委員会 WG を中心に意欲的に目標達成に向けて順次、計画通りに進めてきた。特に、技術の再確認のために、ECS(エンデバーコーチングスタッフ)の伝達講習会を開催し、研修を行った。

また、9ブロック男女講習会開催には数年ぶりに、日本協会より17名のECSを派遣したことなどは大きな成果であったと考える。しかしながら、U-12カテゴリーの9ブロック講習会が年度内に推進できなかったことは残念であったが次年度完全実施の準備段階が整ったことが特筆できる。

b.実績報告

ア. U-18・U-15男女トップエンデバーの実施

イ. U-18・U-15男女ブロックエンデバーの実施

ウ. U-12カテゴリーについては今年度「全国指導者研修会」を実施し次年度実施への確約がとれ、日本ミニバスケット連盟と協働し実施することになった。

エ. 各会議の実施

- ・育成部会の開催→第1回5/19, 第2回11/26
- ・U-18トップエンデバー選考会議 3/3

2) 指導者育成委員会活動報告

a. 概要

「指導者養成」は三位一体の重要な柱の一つであり、「JABBA 変革21」構想の長期計画として最大の事業である。すなわち、次代のオリンピック選手を輩出できるか否かは、今後の日本のバスケットボール界を左右する重要な要因として、この指導者養成事業を考えていかなければならない。時代を担う優秀な指導者を養成することは急務であり、その計画は重要である。

b. 活動実績

ア、(財)日本体育協会公認コーチ養成講習会の開催

毎年3月、実技講習会を日本協会が担当、1週間実施し、他に約2週間日本体育協会担当で開催している。

また、近々には国体監督資格の義務付けが実施される方向にもあり、資格取得をさらに、啓蒙する必要がある。

イ、JBA 公認コーチ制度の円滑な運営→各都道府県協会の主導で、日本協会では、申請・登録・認定に関する連絡・通知・指導を行っている。2年に一回開催するリフレッシュ研修会の方法に課題が残っているが、順に整理していかなばと考えている。

ウ、リフレッシュ研修会を指導者育成委員会 WG の計画・立案で、大阪協会のご協力をいただき、2日間延べ約1,300人の参加者のもとで盛大に開催できたことは全国の指導者の意識がいかに高いかを知る指標にもなった。

継続事業として考えていかなければならない。

エ、(財)日本体育協会公認バスケットボール指導者(コーチ・上級コーチ・指導員・上級指導員)資格取得者がバスケットボール競技関係者に約4,400人いるがコーチコミッティーの機能が発揮できず取得者の有意義な活動が停止していることは重要な課題として残っている。

3) 総括

今年度は、2009年度事業計画に基づいて、育成部会各ブロック代表理事各位の後押しをいただき、エンデバーWG 委員・指導者育成 WG 委員の絶大なる実行力で何とか終了することができました。しかしながら、「JABBA 変革21」の目指すところには、まだまだ到達できていないところも多くありますが、「やれるところからやる」といった方向づけのもとにかなりの部分において成果を上げてきているものと思っています。

育成部の二本柱である「エンデバー委員会」・「指導者育成委員会」のより充実した事業計画を策定し、「チーム JAPAN」の一翼を担っていかなければならないと真摯に受け止め、次年度一段と充実した事業を推進したいと考えております。

(3)味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)

平成 21 年度強化活動を中心に、日本のバスケットボール強化拠点として各カテゴリーが利用した。

味の素トレセンにはバスケットボール専用トレーニング場およびテクニカルルーム(以下、TR)の設置がされている。

味の素トレセンは JOC 管理の下に運営をされており、稼働率の向上が求められている事から、日本代表の活動以外に JBA 加盟団体への貸出も行った。強化活動以外にも会議や研修などで積極的に利用をし、稼働率を上げるよう努めた。今後も日本のバスケットボール強化拠点にふさわしい機能を持つよう体制の構築をしていく。

1) 味の素トレセン施設管理〔全体: JOC、専用施設:各中央競技団体〕

- ・ 専任コーチ及び専任スタッフの配置
 - ①専任コーチングディレクター
トップアスリート担当 2名・ジュニアアスリート担当 2名
 - ②専任メディカルスタッフ
トレーナー 1名
 - ③専任情報・科学スタッフ 1名
- ・ 味の素トレセン年間利用料の支払い

2) 強化拠点としての活用

- ・ 各カテゴリー日本代表年間専属利用
- ・ JBA 内利用計画の策定
- ・ JBA 加盟団体等による利用計画の策定
- ・ 備品の手配、管理
- ・ 合宿・遠征用備品の手配、貸出、管理
- ・ 各種情報の収集・分析

(4) 医科学研究

医科学事業および研究

1. 海外遠征・国際競技会におけるチームドクター派遣;
 - 1) 男子・FIBA アジア選手権大会・東アジア地区予選(2009.06 小牧市)
 - 2) 男子女子・ユニバーシアード競技大会(2009.06-07 セルビア・ベオグラード)
 - 3) 男子・ジョーンズカップ(2009.07 チャイニーズタイペイ)
 - 4) 女子・FIBA U-19 世界選手権大会 (2009.07-08 タイ・バンコク)
 - 5) 男子・FIBA アジア選手権大会 (2009.08 中国・天津)
 - 6) 女子・FIBA アジア選手権大会 (2009.09 インド)
 - 7) 男子・FIBA U-16 アジア選手権大会 (2009.11 マレーシア)
 - 8) 女子・FIBA U-16 アジア選手権大会 (2009.11-12 インド)
 - 9) 男子女子・東アジア競技大会(2009.12 ホンコン・チャイナ)
2. 海外遠征・国際競技会・海外合宿・国内合宿におけるトレーナー派遣;
 - 1) 男子フル代表チーム海外遠征・国際競技会・海外合宿・国内合宿
 - 2) 女子フル代表チーム海外遠征・国際競技会・海外合宿・国内合宿
 - 3) 男子ユニバーシアードチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿

- 4) 女子ユニバーシアードチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
- 5) 女子U-19 チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
- 6) 男子U-16 チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
- 7) 女子U-16 チーム海外遠征・国際競技会・国内合宿

3. 代表チームのメディカルチェック;フル代表、ユニバーシアード、U-19 チーム(女子)、U-16 チーム

4. 国内競技会における医事運営および救護活動;

- 1) JBL2009-2010 シーズン主催試合
- 2) WJBL2009-2010 シーズン主催試合
- 3) 全日本大学選手権大会インカレ女子(2009.11)
- 4) 全国高等学校選抜優勝大会ウインターカップ(2009.12)
- 5) 全日本総合選手権大会オールジャパン(2010.01)
- 6) 全国ミニバスケットボール大会(2010.03)

5. 国内競技会におけるドーピングコントロールの実施;

- 1) 全日本総合選手権大会オールジャパン
- 2) JBL 2009-2010 シーズン
- 3) WJBL 2009-2010 シーズン

6. 日本バスケットボール協会ドーピング防止規程の策定

7. 新型インフルエンザ流行に対する対応の策定

8. バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL)を対象とした外傷調査

9. 医科学研究部会およびワーキンググループ会議の開催

10. その他の活動;

日本体育協会スポーツドクター代表者会議出席・養成講習会受講者推薦

日本体育協会アスレチックトレーナー養成講習会受講者推薦

ドーピングコントロールオフィサー養成講習会受講者推薦

バスケットボールトレーナー研修会開催 など

2. 競技会の開催

(1) 国内競技会

1. 『第28回全国ママさんバスケットボール交歓大会』

期 日:平成21年8月7日(火)～8月9日(木)

開 催 地:岡山県 岡山市

参加チーム:80チーム(一般:56チーム、シニア:24チーム)

順位および:<一般> 優勝チーム

試合結果	Aブロック Witch's 岡山(岡山)	40-35	Lazy Bones (茨城)
	Bブロック ブルーウインズ・レッツ (埼玉)	44-33	ARASHI (大阪)
	Cブロック ハブティ・ダンブティ(千葉)	51-37	TNK・響 (神奈川)
	Dブロック 広島女学院クラブ(広島)	46-43	緑地クラブ A(東京)
	Eブロック Wish(岡山)	54-45	多治見エルクラブ(岐阜)
	Fブロック 桜香クラブ(兵庫)	43-41	大黒天(大阪)
	Gブロック ザ・マザーズ弥生(東京)	47-35	上越ママ (新潟)
	<シニア>優勝チーム		
	Hブロック 岡山シニア選抜(岡山)	46-31	LOVELY 京都(京都)
	Iブロック 清水西クラブ(静岡)	40-18	熊本シニアママ(熊本)
	Jブロック 若葉クラブ(滋賀)	30-18	MBC(青森)

2. 『平成21年度第19回全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会』

期 日:平成21年7月29日(水)～8月1日(土)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム: 男子 45チーム 女子 35チーム

順 位:優勝	神奈川県立横浜修悠館高等学校(通)(神奈川)	天理高等学校 第二部 (奈良)
準優勝	北海道釧路工業高等学校(北海道)	横浜市立横浜総合高等学校 (神奈川)
3 位	大阪府立箕面東高等学校(大阪)	福島県立郡山萌世高等学校 (福島)
3 位	兵庫県立西宮香風高等学校(兵庫)	兵庫県立西宮香風高等学校(兵庫)
試合結果:準決勝	釧路工業 92-88 西宮香風	天理(二部) 87-58 郡山萌世
準決勝	横浜修悠館 75-50 箕面東	横浜総合 79-71 西宮香風
決 勝	釧路工業 64-103 横浜修悠館	天理(二部) 92-68 横浜総合

3. 『平成21年度全国高等学校総合体育大会・第62回全国高等学校バスケットボール選手権大会』

期 日:平成21年7月29日(水)～8月3日(水)

開 催 地:大阪府 大阪市

参加チーム: 男子 59チーム 女子 59チーム

順 位:優勝	福岡第一高等学校 (福岡)	桜花学園高等学校 (愛知)
準優勝	延岡学園高等学校 (宮崎)	東京成徳大学高等学校 (東京)
3 位	北陸高等学校 (福井)	聖カタリナ女子高等学校 (愛媛)

3 位	藤枝明誠高等学校 (静岡)	金沢総合高等学校 (神奈川)
試合結果:準決勝	延岡学園 100-74 北陸	桜花学園 75-57 金沢総合
準決勝	福岡第一 97-76 藤枝明誠	東京成徳 83-60 聖カタリナ女子
決勝	延岡学園 80-82 福岡第一	桜花学園 89-67 東京成徳

4. 『2009FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会(第14回)』

期 日:平成21年8月1日(土)~8月2日(日)

開 催 地:神奈川県 海老名市

参加チーム:	男子Aリーグ 12チーム	女子 11チーム
順 位:優勝	PWLメイジャーズ (神奈川)	春日井クラブ (愛知)
準優勝	つばさクラブ (東京)	つばさクラブ (東京)
3 位	秋田県チーム (秋田)	とよたクラブ (愛知)
4 位	春日井クラブ (愛知)	神奈川 (神奈川)
試合結果:準決勝	PWL 64-54 秋田県	つばさ 70-31 神奈川
準決勝	つばさ 77-52 春日井	春日井 56-46 とよた
3 決	春日井 44-69 秋田	神奈川 46-56 とよた
決勝	PWL 79-55 つばさ	つばさ 48-65 春日井

参加チーム: 男子Bリーグ 9チーム

順 位:優勝 神奈川(神奈川)
準優勝 つばさクラブ B(東京)

試合結果:1~3位決定戦

神奈川 42-15 豊田レインボークラブ B

神奈川 44-28 つばさ

つばさ 41-22 豊田零ボークラブ B

5. 『第47回男子・第39回女子全日本教員バスケットボール選手権大会』

(第65回国民体育大会バスケットボール競技リハーサル大会)

期 日:平成21年8月6日(木)~8月9日(日)

開 催 地:千葉県 船橋市、八千代市

参加チーム:	男子 40チーム	女子 23チーム
順 位:優勝	千葉教員A	千葉女子教員A
準優勝	福島教員A	熊本女子教員
3 位	大阪教員A	東京教員 GOOD JOB
3 位	愛知教員A	千葉教員 B
試合結果:準決勝	大阪 A 64-75 福島 A	千葉 A 111-41 東京
準決勝	千葉 A 100-61 愛知 A	千葉 B 60-93 熊本
決勝	千葉 A 90-73 福島 A	千葉 111-75 熊本

6. 『第14回全国専門学校バスケットボール選手権大会』

期 日:平成21年8月19日(水)~8月22日(土)

開 催 地:宮城県 仙台

参加チーム: 男子 16チーム

女子 12チーム

順 位:優勝 アップルスポーツカレッジ
 準優勝 専門学校尚学院国際ビジネスアカデミー
 3 位 日本ウエルネススポーツ専門学校
 4 位 日本工学院八王子専門学校
 試合結果:準決勝 アップル 105-71 日工八王子
 準決勝 尚学院 102-79 日本ウエルネス
 3 決 日本ウエルネス 94-80 日工八王子
 決 勝 アップル 93-69 尚学院

日本ウエルネススポーツ専門学校
 大阪社会体育専門学校
 東京スポーツ・レクレーション専門学校
 横浜リゾート&スポーツ専門学校
 大阪社体 98-54 東京スポ・レク
 横浜リゾート 67-71 日本ウエルネス
 横浜リゾート 71-78 東京スポ・レク
 大阪社体 75-79 日本ウエルネス

7. 『第39回全国中学校バスケットボール大会』

期 日:平成21年8月20日(木)~8月22日(土)

開 催 地:鹿児島県 鹿児島市、薩摩川内市

参加チーム: 男子 24チーム

女子 24チーム

順 位:優勝 京北中学校(東京)
 準優勝 鹿児島市立清水中学校(鹿児島)
 3 位 野々市町立布水中学校(石川)
 3 位 弘前市立津軽中学校(青森)
 試合結果:準決勝 布水 63-89 京北
 準決勝 津軽 61-74 清水
 決 勝 清水 47-102 京北

北谷町立北谷中学校(沖縄)
 福津市立津屋崎中学校(福岡)
 八王子市立第一中学校(東京)
 埼玉栄中学校(埼玉)
 津屋崎 70-62 八王子第一
 埼玉栄 52-73 北谷
 津屋崎 44-73 北谷

8. 『平成21年度全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技』

期 日:平成21年8月22日(土)~8月23日(日)

開 催 地:沖縄県 宜野湾市

参加チーム: 男子 12チーム

女子 8チーム

順 位:優勝 北九州工業高等専門学校(福岡)
 準優勝 宮城工業高等専門学校(宮城)
 3 位 神戸市立工業高等専門学校(兵庫)
 3 位 金沢工業高等専門学校(石川)
 試合結果:準決勝 北九州 67-64 神戸市立
 準決勝 宮城 92-69 金沢
 決 勝 北九州 72-68 宮城

大島商船高等専門学校(山口)
 鈴鹿工業高等専門学校(三重)
 宮城工業高等専門学校(宮城)
 沖縄工業高等専門学校(沖縄)
 大島商船 85-55 宮城
 鈴鹿 89-80 沖縄
 大島商船 74-64 鈴鹿

9. 『日本スポーツマスターズ2009』

期 日 平成21年9月19日(土)~9月22日(火)

開催地:静岡県 静岡市

参加チーム: 男子 42チーム

女子 22チーム

順位:優勝 東京

ハンパティ・ダンパティ

準優勝 大阪

埼玉ドリームズA

3位 山口

緑地クラブ

3位 千葉

コスモス

試合結果:準決勝 東京 92-42 千葉

緑地クラブ 44-59 ハンパティ・ダンパティ

準決勝 大阪 83-60 山口

埼玉ドリームズA 66-52 コスモス

決勝 東京 79-57 大阪

ハンパティ・ダンパティ 64-54 埼玉ドリームズA

10. 『第64回国民体育大会』

期 日:平成21年10月2日(金)~10月6日(火)

開催地:新潟県 新潟市、佐渡市

参加チーム: 成年男子 12チーム

成年女子 47チーム

順位:優勝 山形

山形

準優勝 新潟

山梨

3位 千葉

東京

3位 静岡

熊本

試合結果:準決勝 千葉 73-88 新潟

東京 64-77 山梨

準決勝 静岡 69-80 山形

山形 84-68 熊本

決勝 新潟 68-80 山形

山梨 65-75 山形

参加チーム: 少年男子 12チーム

少年女子 12チーム

順位:優勝 京都

愛知

準優勝 静岡

東京

3位 福岡

大阪

3位 千葉

山形

試合結果:準決勝 福岡 84-127 静岡

愛知 95-62 大阪

準決勝 千葉 95-97 京都

山形 66-88 東京

決勝 静岡 82-91 京都

愛知 72-64 東京

11. 『日本バスケットボールリーグ2009-2010(JBL)』

期 日 平成21年10月2日(金)~平成22年4月15日(木)

開催地 全国各地

参加チーム: 8チーム

順位:優勝 リンク栃木ブレックス

準優勝 アイシンシーホース

3位 パナソニックトライアンズ

3位 日立サンロッカーズ

試合結果: プレイオフセミファイナル

第1戦 アイシン 66-61 日立 リンク 81-91 パナソニック

第2戦 アイシン 61-46 日立 リンク 84-72 パナソニック

第3戦 * * * リンク 81-80 パナソニック

プレイオフファイナル

第1戦 アイシン 77-88 リンク

第2戦 アイシン 72-80 リンク

第3戦 アイシン 63-71 リンク

12. 『第11回Wリーグ(WJBL)』

期 日:平成21年10月3日(土)~平成22年3月4日(木)

開催地:全国各地

参加チーム: Wリーグ 8チーム Wリーグ 5チーム

順位: 優勝 JOMOサンフラワーズ 日立ハイテククーガーズ

準優勝 トヨタ自動車アンテロープス エバラヴィッキーズ

3位 富士通レッドウェーブ トヨタ紡織サンシャインラビッツ

4位 日本航空 JAL ラビッツ 山梨クィーンビーズ

試合結果: Wリーグ・プレイオフセミファイナル

第1戦 JOMO 68-59 富士通 トヨタ 62-44 日本航空

第2戦 JOMO 60-73 富士通 トヨタ 102-63 日本航空

第3戦 JOMO 77-73 富士通 * * *

Wリーグ・プレイオフファイナル

第1戦 トヨタ 59-62 JOMO

第2戦 トヨタ 66-83 JOMO

第3戦 トヨタ 58-81 JOMO

13. 『JBL2 2009-2010』

期 日 平成21年10月17日(土)~平成22年3月21日(日)

開催地 全国各地

参加チーム: 8チーム

順位: 優勝 豊田通商ファイティングイーグルス

準優勝 石川ブルースパークス

3位 アイシン・エイ・ダブリュ アレイオンズ安城

試合結果: プレイオフ

セミファイナル 豊田通商 81-69 日立電線

石川 88-74 アイシン AW

3位決定戦 アイシン AW 71-59 日立電線

ファイナル 豊田通商 91-67 石川

14. 『第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会』

期 日:平成21年10月24日(土)~10月25日(日)

開 催 地:群馬県 前橋市

参加チーム:	男子 16チーム	女子 8チーム
順 位:優勝	横河電機 (実業団 1位)	山形銀行 (実業団 2位)
準優勝	新生紙パルプ商事 (実業団 3位)	鶴屋百貨店 (実業団 1位)
3 位	SWOOPS(クラブ 1位)	秋田銀行 (実業団 3位)
試合結果: 準決勝	横河電機 91-57 SWOOPS	鶴屋百貨店 72-61 千葉女子教員
準決勝	新生紙パルプ商事 66-56 九州電力	秋田銀行 55-56 山形銀行
3 決	SWOOPS 76-75 九州電力	秋田銀行 69-55 千葉女子教員
決 勝	横河電機 97-60 新生紙パルプ商事	山形銀行 82-68 鶴屋百貨店

15. 『第2回全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会 兼
第1回全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会』

期 日:平成21年11月22日(日)~11月23日(月)

開 催 地:群馬県 前橋市

参加チーム:	シニア 16チーム	スーパーシニア 12チーム
順 位:優勝	東京都 (東京都)	松橋シニアスーパースターズ(熊本)
準優勝	千葉 GOLD FIVE (千葉)	草加せんべーず (埼玉)
試合結果: 準決勝	東京都 94-34 キガタ	草加 83-61 にいがた
準決勝	千葉 88-46 長崎オールスターズ	松橋 75-64 伊豆の国市体協
決 勝	東京都 66-55 千葉	草加 65-81 松橋

16. 『第61回全日本大学バスケットボール選手権大会(女子)』

期 日:平成21年11月23日(月)~11月29日(日)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:	32チーム
順 位:優勝	筑波大学
準優勝	愛知学泉大学
3 位	拓殖大学
試合結果: 準決勝	拓殖大 59-61 筑波大
準決勝	大体大 51-73 学泉大
3 決	拓殖大 84-83 大体大
決 勝	筑波大 87-85 学泉大

17. 『第61回全日本大学バスケットボール選手権大会(男子)』

期 日:平成21年12月2日(水)~12月6日(日)

開 催 地:大阪府 大阪市

参加チーム: 32チーム

順位:優勝 日本大学
 準優勝 慶應義塾大学
 3位 青山学院大学
 試合結果:準決勝 日本大 74-70 東海大
 準決勝 青学大 99-113 慶應大
 3 決 青学大 98-86 東海大
 決 勝 日本大 95-85 慶應大

18. 『第11回全国専門学校バスケットボール選抜大会』

期 日:平成21年12月17日(木)~12月20日(日)

開 催 地:千葉県 千葉市

参加チーム:	男子 8チーム	女子 6チーム
順位:優勝	沖縄ブロック	東京ブロック
準優勝	東京ブロック	関西ブロック
3 位	関西ブロック	北海道ブロック
試合結果:準決勝	沖縄 94-82 関西	東京 100-55 東海
準決勝	東京 99-98 北信越	関西 98-63 北海道
3 決	北信越 75-88 関西	北海道 87-76 東海
決 勝	沖縄 109-85 東京	東京 65-52 関西

19. 『JOMOウインターカップ2009 平成21年度第40回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会』

期 日:平成21年12月23日(水・祝)~12月29日(火)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:	男子 50チーム	女子 50チーム
順位:優勝	明成高等学校(宮城)	桜花学園高等学校(愛知)
準優勝	福岡第一高等学校(福岡)	東京成徳高等学校(東京)
3 位	福岡大学附属大濠高等学校(福岡)	札幌山の手高等学校(北海道)
4 位	北陸高等学校(福井)	山形市立商業高等学校(山形)
試合結果:準決勝	福岡第一 102-73 北陸	桜花学園 82-46 札幌山の手
準決勝	福大大濠 86-96 明成	東京成徳 86-76 山形市商
3 決	北陸 89-65 福大大濠	山形市商 76-79 札幌山の手
決 勝	福岡第一 56-69 明成	桜花学園 68-59 東京成徳

20. 『第85回天皇杯・第76回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年1月1日(金)~1月11日(月・祝)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:	男子 32チーム	女子 32チーム
順位:優勝	アイシンシーホース	JOMO サンフラワーズ
準優勝	日立サンロッカーズ	トヨタ自動車 アンテロープス

3 位	パナソニックトライアンズ	富士通 レッドウェーブ
3 位	レラカムイ北海道	日本航空 JAL ラビッツ
試合結果:	準決勝 アイシン 84-74 パナソニック	JOMO 70-61 富士通
	準決勝 日立 78-67 レラカムイ	トヨタ 80-64 JAL
	決勝 アイシン 84-73 日立	JOMO 65-59 トヨタ

21. 『第42回全日本実業団バスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年2月5日(金)~2月8日(月)

開 催 地:長崎県 長崎市

参加チーム: 男子 32チーム

女子 16チーム

順位:優勝 横河電機

山形銀行

準優勝 九州電力

鶴屋百貨店

3 位 三井住友銀行

丸紅

3 位 JR東日本秋田

三井住友銀行

試合結果: 準決勝 横河電機 76-62 JR 東日本

山形銀行 84-59 丸紅

準決勝 九州電力 82-79 三井住友銀行

鶴屋百貨店 65-53 三井住友銀行

決勝 横河電機 69-58 九州電力

山形銀行 77-66 鶴屋百貨店

22. 『第36回全日本クラブバスケットボール選手権大会』

期 日:平成22年3月20日(土)~3月22日(月)

開 催 地:福島県 福島市

参加チーム: 男子 32チーム

女子 32チーム

順位:優勝 055(三重)

BLUE☆STARS(埼玉)

準優勝 SWOOPS(岐阜)

OM ガス石油 SS(沖縄)

3 位 BUBBLES(兵庫)

LOWS(愛知県)

3 位 三種体協琴丘(秋田)

Free クラブ(静岡)

試合結果: 準決勝 BUBBLES 61-85 SWOOPS

LOWS 62-80 OM ガス石油 SS

準決勝 055 86-77 三種体協

BLUE 96-83 Free

決勝 SWOOPS 70-73 055

BLUE 73-55 OM ガス石油 SS

23. 『平成21年度 第23回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会』

期 日:平成22年3月28日(日)~3月30日(火)

開 催 地:東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

参加チーム: 男子 48チーム

女子 48チーム

順位:優勝 福岡県

福岡県

準優勝 東京 A

愛知県

3 位 埼玉県

東京 A

3 位 北海道

静岡県

試合結果: 準決勝 東京 A 82-61 埼玉

東京 A 54-56 愛知

準決勝 福岡 88-67 北海道
決勝 東京 A 82-83 福岡

静岡 55-70 福岡
福岡 70-49 愛知

24. 『第41回全国ミニバスケットボール大会』

期 日:平成22年3月28日(日)~3月30日(火)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:男子 48チーム 女子 48チーム

順位および:<男子> 優勝チーム

試合結果 Aブロック 戸畑クラブ(福岡) 81-29 燕ジュニアドラゴンズ(新潟)
Bブロック 瀬谷第二ラプターズ(神奈川) 44-30 三里MBC(高知)
Cブロック 諸富男子ミニバスケットボールクラブ(佐賀) 50-47 袋原スポーツ育成会バスケットボール部(宮城)
Dブロック 滝ノ水ウイング(愛知) 42-37 上田小学校(沖縄)

<女子> 優勝チーム

Aブロック 昭和ミニバスケットボールクラブ(愛知) 40-32 白河MBBスポーツ少年団(山梨)
Bブロック 青葉小ミニバスケットボール育成会(東京) 46-43 川口じりんMBC(山口)
Cブロック 小倉バスケットボールクラブ 58-29 船越ミニバスケットボール少年団(島根)
Dブロック 輪島レッドイーグルス(石川) 53-26 美川MBCミニバスケットボールクラブ(愛知)

(2) 国体部

1. 国体部と専務理事打合せ

① 日時:平成21年4月28日(火)14:00~〔岸記念体育会館〕

② 内容

- 少年男女の種別に、中学3年生の参加について
- 少年・成年種別の開催等の見直し
- 中学男子のボールの変更 6号⇒7号
- 監督の資格:JBA公認コーチ+日体協の公認指導者資格
- 参加チーム見直し:12チームから16チームへ変更(選手削減で対応)

2. 新潟国体イベント事業打合せ

① 日時:平成21年6月6日(土)14:00~〔岸記念体育会館〕

② 議題:全体スケジュール、参加者確認、業務分担

3. 国体部会

① 日時:平成21年6月11日(木)13:30~〔岸記念体育会館〕

② 議題:年間予定、業務分担、チーム数変更、中学生の参加等

4. 国体部会

① 日時:平成21年6月23日(火)15:30~〔渋谷シダックスホール〕

- ② 議題: イベント事業、リハーサル大会、国体運営、国体改革等
5. 新潟国体イベント事業打合せ
- ① 日時: 平成 21 年 7 月 3 日(土)16:00~〔新潟グランドホテル〕
 - ② 議題: 詳細タイムスケジュール、担当業務最終確認
6. 山口県協会・県体育協会打合せ
- ① 日時: 平成 21 年 7 月 22 日(水)13:00~〔医療法人相和会会議室〕
 - ② 議題: 国体成年の部の選手の資格条件等
7. 第 65 回 平成 22 年「千葉国体」リハーサル大会
- ① 日時: 平成 21 年 8 月 5 日(水)~9 日(日) 船橋市、八千代市
 - ② 内容: 代表者会議運営、表彰式典、競技運営等
 - ③ 次回開催県打合せ: 8 月 6 日(木)〔船橋グランドホテル〕
8. 国体部会
- ① 日時: 平成 21 年 8 月 24 日(月)18:00~〔岸記念体育会館〕
 - ② 議題: リハーサル大会、抽選会、国体運営、国体改革等
9. 新潟国体組合せ抽選会
- ① 抽選会リハーサル: 平成 21 年 9 月 4 日(金)〔東京都体育館研修室〕
 - ② 抽選会: 平成 21 年 9 月 5 日(土)14:00~〔岸記念体育会館〕
10. 第 64 回 平成 21 年「新潟国体」
- ① 平成 21 年 10 月 1 日(木)~6 日(火) 新潟市、佐渡市
 - ② 第 66 回 平成 23 年「山口国体」リハーサル大会4者会議
(日本協会、教員連盟、開催地、次期開催地)
 - ③ イベント事業: 10 月 4 日(日) 男女 U-15 の強化試合の実況解説
11. 国体部会
- ① 日時: 平成 21 年 10 月 30 日(金)18:30~〔岸記念体育会館〕
 - ② 議題: 国体運営、イベント事業、国体改革等
12. 岐阜県視察
- ① 日時: 平成 21 年 12 月 4 日(金)~5 日(土)
 - ② 議題: チーム数の変更(12⇒16 チーム)
13. 第 70 回 平成 27 年「和歌山国体」正規視察
- ① 日時: 平成 22 年 1 月 19 日(火)~20 日(水)

② 内容:器具・施設・準備状況等

14. 岐阜県との調整

- ① 日時:平成 22 年 2 月 18 日(木)
- ② 議題:チーム数の変更(12⇒16 チーム)
- ③ 出席:専務理事、国体部長、事務局長

15. 国体部会

- ① 日時:平成 22 年 3 月 2 日(火)14:00～〔岸記念体育会館〕
- ② 議題:チーム数の変更、中学生の参加、少年・成年種別の開催等

(3)日本スポーツマスターズ委員会

- 1. 日本スポーツマスターズ 2009 第1回中央競技団体連絡協議会
期 日:平成 21 年 4 月 16 日(木)13 時
場 所:岸記念体育館 2 階会議室
議 題:日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会について

- 2. 平成 21 年度第 1 回日本スポーツマスターズ委員会
期 日:平成 21 年 6 月 9 日(火)13 時
場 所:岸記念体育館 2 階会議室
議 題:①日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会準備状況について
②日本スポーツマスターズ 2010 三重大会競技会場について

- 3. 日本スポーツマスターズ 2009 第2回中央競技団体連絡協議会
期 日:平成 21 年 6 月 18 日(木)13 時
場 所:岸記念体育館 2 階会議室
議 題:日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会の実施について

- 4. 日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会組合せ抽選会
期 日:平成 21 年 8 月 4 日(火)13 時
場 所:岸記念体育館 504 号会議室

- 5. 日本スポーツマスターズ 2009 第3回中央競技団体連絡協議会
期 日:平成 21 年 8 月 27 日(木)16 時
場 所:岸記念体育館 2 階会議室
議 題:日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会実施について

- 6. 日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会開催
期 日:平成 21 年 9 月 19 日(土)～22 日(火)

場 所:静岡県立静岡商業高校体育館・静岡市清水総合運動場体育館

参加チーム:男子 42 チーム・女子 22 チーム

7. 日本スポーツマスターズ 2010 三重大会現地会場視察及び打合せ

期 日:平成 21 年 11 月 13 日(金)13 時

場 所:三重県伊勢市サンアリーナ

テーマ: 1)大会会場及び器具関係視察

2)現状での問題点の把握と指導・助言

8. 日本スポーツマスターズ委員会第4回中央競技団体連絡協議会

期 日:平成 21 年 11 月 19 日(木)13 時

場 所:岸記念体育館 2 階会議室

議 題:日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会終了について

9. 平成 21 年度第2回日本スポーツマスターズ委員会

期 日:平成 22 年 2 月 9 日(火)15 時

場 所:岸記念体育館 2 階会議室

議 題:①日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会の総括について

②日本スポーツマスターズ 2010 三重大会における企業協賛について

③日本スポーツマスターズ実施競技意向調査について

3. 国際競技会の開催及び代表チームの派遣

(1)国際(国内開催)

1. 『第32回李相佰杯争奪 日韓学生バスケットボール競技大会』

期 日:平成21年5月15日(金)～5月17日(日)

開 催 地:神奈川県 小田原市

参加チーム: 男子 2チーム

順 位:優 勝 韓国学生選抜(1勝1敗1引)

準優勝 日本学生選抜(1勝1敗1引)

試合結果 : 第1戦 韓国 78-69 日本

第2戦 日本 78-76 韓国

第3戦 日本 91-91 韓国

2. 『第1回東アジアバスケットボール選手権大会

兼 第25回 FIBA アジア男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選』

期 日:平成21年6月10日(水)～6月14日(日)

開 催 地:愛知県 小牧市

参加チーム:6チーム

日本、韓国、中国、チャイニーズ・タイペイ、ホンコン・チャイナ、モンゴル
順位:

優勝 韓国
準優勝 日本
3位 中国
4位 チャイニーズ・タイペイ
5位 ホンコン・チャイナ
6位 モンゴル

試合結果 : 予選グループ A 日本 78-66 チャイニーズ・タイペイ
日本 109-65 モンゴル
準決勝 日本 68-63 中国
決勝 日本 58-68 韓国

(2) 国際(国外開催)

1. 『第25回ユニバーシアード競技大会』

期 日:平成21年7月1日(水)~7月12日(日)

開催地:セルビア ベオグラード

参加チーム: 男子 26チーム 女子 16チーム
順位:優勝 セルビア トルコ
準優勝 ロシア フランス
日本(19位) 日本(9位)

試合結果 : 予選ラウンド

日本 74-104 ウクライナ 日本 69-112 オーストラリア
ブルガリア 108-96 日本 日本 90-78 カナダ
日本 88-90 スロバキア

2次フェーズ

南アフリカ 61-107 日本 日本 97-86 モザンビーク
日本 97-77 韓国 日本 94-95 ハンガリー

順位決定戦

日本 106-97 オーストラリア 日本 96-124 セルビア
日本 92-98 ブラジル 日本 91-86 中国

2. 『第1回アジアユースゲームズ』

期 日:平成21年7月2日(木)~7月9日(木)

開催地:シンガポール

参加チーム: 男子 17チーム 女子 14チーム
順位:優勝 中国 日本

準優勝	イラン	中国	
試合結果 : 予選ラウンド			
日本	33-8 ヨルダン	日本	33-0 クェート
日本	14-33 イラン	日本	34-0 ネパール
日本	26-34 フィリピン	日本	33-19 韓国
日本	33-10 モンゴル		
準々決勝		日本	33-2 スリランカ
準決勝		日本	33-13 タイ
決勝		日本	33-32 中国

3. 『第31回女子ジョーンズカップ』

期 日:平成21年7月12日(日)~7月16日(木)

開 催 地:チャイニーズタイペイ 台北

参加チーム: 4チーム

順 位: 優勝 韓国 新韓銀行

準優勝 チャイニーズ・タイペイ

3位 日本

試合結果 : 予選リーグ

韓国 79-74 日本

日本 61-60 チャイニーズ・タイペイ

日本 87-43 マレーシア

決勝トーナメント 日本 58-70 チャイニーズ・タイペイ

3位決定戦 日本 85-40 マレーシア

4. 『第31回男子ジョーンズカップ』

期 日:平成21年7月18日(土)~7月26日(日)

開 催 地:チャイニーズタイペイ 台北

参加チーム: 9チーム

順 位: 優勝 イラン

準優勝 ヨルダン

ベスト8 日本(1勝7敗)

試合結果 : 日本 74-77 チャイニーズ・タイペイ A

日本 81-90 ヨルダン

日本 87-85 フィリピン

日本 70-82 イラン

日本 70-75 カザフスタン

日本 81-84 韓国

日本 58-90 ヨルダン

日本 91-97 チャイニーズ・タイペイ B

5. 『第8回FIBA U19女子世界バスケットボール選手権大会』

期 日:平成21年7月23日(木)～8月2日(日)

開 催 地:タイ バンコク

参加チーム: 16チーム

順 位:優 勝 アメリカ

準優勝 スペイン

3 位 アルゼンチン

4 位 カナダ

12位 日本

試合結果 :予選ラウンド グループC	日本	85-64	チュニジア
	日本	64-83	ロシア
	日本(1勝2敗)	51-73	カナダ
2次ラウンド	日本	57-91	スペイン
	日本	78-70	中国
	日本(1勝2敗)	68-109	アメリカ
9-12位決定戦	日本	56-62	ブラジル
11位決定戦	日本	59-76	中国

6. 『第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会』

(兼 FIBA 世界バスケットボール選手権大会アジア地区予選)

期 日:平成21年8月6日(木)～8月16日(日)

開 催 地:中国 天津市

参加チーム: 16チーム

順 位:優 勝 イラン

準優勝 中国

3 位 チャイニーズ・タイペイ

10位 日本

試合結果 :予選ラウンド	日本	74-95	韓国
	日本	69-78	フィリピン
	日本	148-45	スリランカ
	日本	78-51	クエート
	日本	79-99	チャイニーズ・タイペイ
9-12位決定戦	日本	86-59	アラブ首長国連邦
9位決定戦	日本	73-77	カザフスタン

7. 『第7回日・韓・中ジュニア交流競技会』

期 日:平成21年8月25日(火)～8月27日(木)

開 催 地:韓国 木浦市

参加チーム： 男子 4チーム	女子 4チーム
試合結果： 日本 81-105 韓国	日本 69-87 韓国
日本 61-68 全南	日本 74-45 全南
日本 71-113 中国	日本 63-94 中国

8. 『第23回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会』

(兼 FIBA 女子世界バスケットボール選手権大会アジア地区予選)

期 日：平成21年9月17日(木)～9月24日(木)

開 催 地：インド チェンナイ

参加チーム： 6チーム(レベル I)

順 位：優 勝 中国

準優勝 韓国

3 位 日本

試合結果：予選ラウンド

日本	68-82	韓国
日本	58-75	中国
日本	73-65	チャイニーズ・タイペイ
日本	94-60	タイ
日本	108-58	インド
日本	57-101	韓国
日本	72-58	チャイニーズ・タイペイ
中国	91-71	韓国

準決勝

3位決定戦

決勝

9. 『第1回FIBAアジアU16男子バスケットボール選手権大会』

(兼 FIBA U17男子世界バスケットボール選手権大会アジア地区予選)

期 日：平成21年11月19日(木)～11月29日(日)

開 催 地：マレーシア ジョホールバル

参加チーム： 16チーム

順 位：優 勝 中国

準優勝 韓国

3 位 チャイニーズ・タイペイ

6 位 日本

試合結果：予選ラウンド

日本	59-64	フィリピン
日本	85-84	バーレーン
日本	78-66	カザフスタン
日本	56-93	韓国
日本	67-75	チャイニーズ・タイペイ
日本	57-100	ヨルダン
日本	66-71	チャイニーズ・タイペイ

5-8位決定戦

5位決定戦

10. 『第1回FIBAアジアU16女子バスケットボール選手権大会』

(兼 FIBA U17女子世界バスケットボール選手権大会アジア地区予選)

期 日:平成21年11月30日(月)～12月6日(日)

開 催 地:インド プネー

参加チーム: 12チーム

順 位:優勝 中国

準優勝 日本

試合結果 :予選ラウンド

日本 120-9 スリランカ

日本 103-49 タイ

日本 125-44 カザフスタン

日本 112-26 マレーシア

日本 104-54 韓国

準決勝

日本 79-49 チャイニーズ・タイペイ

決勝

日本 86-99 中国

11. 『東アジア競技大会』

期 日:平成21年12月2日(水)～12月11日(金)

開 催 地:ホンコン・チャイナ

参加チーム:男子 8チーム

順 位:優勝

韓国

準優勝

チャイニーズ・タイペイ

3 位

日本

試合結果 :予選ラウンド

日本 74-66 韓国

日本 104-54 グアム

日本 92-69 ホンコン・チャイナ

日本 111-34 インド

準決勝

日本 67-69 チャイニーズ・タイペイ

3位決定戦

日本 79-71 中国

参加チーム:女子 5チーム

順 位:優勝 中国

準優勝 チャイニーズ・タイペイ

3 位 日本

試合結果 :予選ラウンド

日本 91-60 韓国

日本 59-54 中国

日本 63-76 チャイニーズ・タイペイ

日本 124-41 ホンコン・チャイナ

準決勝

日本 77-79 中国

3位決定戦

日本 86-77 韓国

4. 国際関係

<国際部>

1. 国内開催各大会等の支援

- 1) 第25回 FIBA アジア男子選手権東アジアサブゾーン予選(6月8日～14日)名古屋/小牧
- 2) フィリピン招聘・男子日本代表ナショナルチーム交流戦(5月25日～31日)東京

2. 大会参加チームの支援

- 1) 第31回男子ジョーンズカップ(7月18日～26日)タイペイ
- 2) 第31回女子ジョーンズカップ(7月12日～16日)タイペイ
- 3) 第25回ユニバーシアード競技大会(7月1日～7月12日)ベオグラード
- 4) 第1回アジアユースゲームズ(7月2日～7月9日)シンガポール
- 5) 第9回FIBA・U-19男子世界選手権(7月2日～7月12日)オークランド
- 6) 第8回FIBA・U-19女子世界選手権(7月23日～8月2日)タイ=バンコク
- 7) 第25回FIBAアジア男子選手権大会(8月6日～16日)中国=天津
- 8) 第23回FIBAアジア女子選手権大会(9月14日～26日)インド=チェンナイ
- 9) 男子U-16 ノキア国際招待大会(11月3日～9日)フィリピン=セブ
- 10) 第1回FIBAアジアU-16男子選手権大会(11月17日～23日)
マレーシア=ジョホーバル
- 11) 第1回FIBAアジアU-16女子選手権大会(10月21日～10月29日)インド=プネー
- 12) 第5回東アジア競技大会(12月12日～12月20日)ホンコン・チャイナ
- 13) 全日本大学バスケットボール連盟男子代表チーム外国強化合宿(3月14日～23日)
トルコ=イスタンブール
- 14) 第25回男子U-18 アルバート・シュバイツァー国際選手権(2010年3月29日～4月12日)
ドイツ=マンハイム

3. 国際会議等対応

- 1) IOC 評価委員会視察準備会(4月4日:東京)
- 2) 東アジア選手権準備会議(4月24日:名古屋)
- 3) 東アジア選手権組み合わせ会議(5月1日:名古屋)
- 4) FIBA アジア理事会(5月25日～27日:クアラルンプール)
- 5) FIBA アジア加盟国役員会議(7月25日:タイペイ)
- 6) FIBA アジア加盟国役員会議(9月21日・23日:チェンナイ)
- 7) FIBA アジア理事会(11月20日:ジョホーバル)
- 8) EABA 役員会議(11月20日:ジョホーバル)
- 9) 日・中・韓3カ国女子クラブリーグ準備会議(12月6日:ホンコン)
- 10) 東アジアサブゾーン協会総会(12月7日:ホンコン)
- 11) 国際親善女子車椅子バスケットボール選手権代表者会議(2010年2月17日:大阪)
- 12) 在日アフガニスタン大使館との協議(2010年3月15日:東京)

4. FIBA/FIBA アジア役員等対応

- 1) フィリピン協会役員(5月25日～30日:東京)
- 2) FIBA 役員(7月29日:バンコク)

- 3)FIBA アジア役員(8月6日・7日:天津)
- 4)ドイツ協会会長等(8月10日:東京)
- 5)フィリピン協会役員(11月3日・5日:セブ)
- 6)アメリカ車椅子バスケットボール連盟役員(2010年2月18日:大阪)
- 7)オーストラリア協会車椅子バスケットボール担当役員(2010年2月19日:大阪)
- 8)FIBA アジア役員(2010年3月21日～23日:東京)
- 9)ネパール協会会長等(2010年3月25日:東京)
- 10)中国・韓国協会役員/女子クラブリーグ役員等(2010年3月28日～30日:東京)

【注】

日常の諸業務等については省略。

5. 講習会及び指導者養成

(1) 公認スポーツ指導者養成

「1. 技術の調査研究」の中で報告済み。

(2) 規則・審判事業

<審判規則部>

1. 全国審判長会議

期日:平成 21 年 4 月 4 日(土)～4 月 5 日(日)

参加者:全国審判長、ブロック長、審判指導員、審判審査委員、審判規則部会メンバー

場所:東京

内容:①平成 20 年度審判部会事業報告及び 21 年度事業計画発表

②平成 20 年度審判部会決算報告及び 21 年度予算報告発表

③競技規則変更点等の講義、規則に関する質疑応答

④日本協会公認審判審査委員会及び各連盟、委員会からの報告

⑤ブロック別審判長会議

2. ブロック長会議

期日:第 1 回 平成 21 年 4 月 4 日(土) (東京)

第 2 回 平成 21 年 10 月 3 日(土)(新潟市)

参加者:各ブロック審判長(10 名)、及び審判規則部長、副部長、総務委員他

内容:①各ブロックの状況報告

②21 年度第 1 次 A 級指名強化招集者の選考、女性(A 級)審判強化合宿招集者の選考

③A 級及び女性審判の指導育成について

④21 年度下半期の行事の確認及び、22 年度行事案の検討(第2回開催時)

⑤国際審判員早期受験及び研修システムについて(第2回開催時)

3. A 級研修合宿

期日:平成 21 年 5 月～平成 22 年 2 月(全国各ブロック開催地)

講師: 審判規則部指導委員会

参加者: A 級公認審判員

内容: A 級公認審判員としての意識向上と技術の全国標準化を図るための研修会(研修内容は各ブロック主導で企画)派遣要請のあったブロックに講師派遣。

4. FIBA-ASIA クリニック(国際審判員・コミッショナー新規受験及び資格更新検定等)

期日: 平成 21 年 5 月 30 日(土)～31 日(日)(国際審判員)

場所: ホンコンチャイナ

講師: Lubomir Kotleba 氏(FIBA・スポーツディレクター)

参加者: 国際審判員新規受講者 1 名受講(合格)その他、オブザーバー2名参加

内容: 講義、審判実技テスト、英文ルールテスト、語学カテスト、体カテスト

期日: 平成 22 年 3 月 19 日(金)～20 日(土)(コミッショナー)

場所: マレーシア(クアラルンプール)

講師: Lubomir Kotleba 氏(FIBA・スポーツディレクター)

参加者: オブザーバー1名参加

内容: 講義、ルール 2010 最終確認他

5. A 級強化合宿(フレッシュマン研修)

期日: 平成 21 年 4 月 25 日(土)、26 日(日)、5 月 2 日(土)、3 日(日)

場所: 東京(府中市)

講師: 審判規則部指導委員会

参加者: 平成 21 年度 A 級公認男性新規昇格者 15 名

内容: 新規昇格者を対象に、A 級審判員としての心構えや、実戦の試合を通して審判技術の向上等を研修する。

またルールテスト、英会話テストを実施し評価の高い者を第 2 次 A 級指名強化合宿へ推薦。

6. 第1次 A 級(男性)指名強化合宿

期日: 平成 21 年 4 月 25 日(土)、26 日(日)、5 月 2 日(土)、3 日(日)

場所: 東京(府中市)

講師: 審判規則部指導委員会

参加者: 男性 A 級公認審判員 20 名(各ブロックからの推薦者)

内容: 実戦ゲームにより判定基準、ゲームコントロール等を評価し、評価の高い者を第 2 次 A 級指名強化合宿へ推薦。

7. 女性審判強化合宿

期日: 平成 21 年 7 月 16 日(木)～7 月 20 日(月)

場所: 三重県伊勢市(WJBL サマーキャンプ)

講師: 審判規則部指導委員会

参加者: 18 名(女性 A 級、AA 級対象)

内容:WJBL ゲームの実技を通して、判定基準の確立を研修。その他、チームスタッフとのミーティング等を実施。
(WJBLとの共同開催形式)

8. AA 級強化合宿(男性)

期日:平成 21 年 7 月 16 日(木)~7 月 20 日(月)

場所:三重県伊勢市(WJBL サマーキャンプ)

講師:審判規則部指導委員会

参加者:男性 AA 級公認審判員(WJBL 担当)

内容:前年度シーズンの反省、WJBL ゲームの実技研修、チームスタッフとのミーティング、ルールの確認作業等を実施。(WJBLとの共同開催形式)

期日:平成 21 年 8 月 29 日(土)~8 月 30 日(日)

場所:東京(味の素ナショナルトレーニングセンター)

講師:審判規則部指導委員会

参加者:男性 AA 級公認審判員(JBL 担当)

内容:前年度シーズンの反省、男子 U-16、U-18 日本代表練習試合による実技研修、DVD 研修、チームスタッフとのミーティング、ルールの確認作業等を実施。(JBLとの共同開催形式)

9. 第 2 次 A 級指名強化合宿

期日:平成 21 年 9 月 12 日(土)~9 月 13 日(日)

場所:男性 東京都内

女性 茨城県つくば市

講師:審判規則部指導委員会

参加者:男性は第 1 次及び A 級強化合宿から選抜(8 名)

女性は女性審判強化合宿から選抜(4 名)

内容:1 泊 2 日の強化合宿形式にて実施。ミーティングや実戦ゲームにより判定基準、ゲームコントロール等を度評価し、全員を AA 級審査会へ推薦。

10. AA 級審査会

期日:平成 21 年 10 月 10 日(土)~10 月 11 日(日)

場所:男性 埼玉県東松山市

女性 東京都内

講師:審判規則部指導委員会

参加者:A 級審判からの選抜者(男性 8 名、女性 4 名)

内容:第 2 次 A 級指名強化合宿からの推薦者が参加。1 泊 2 日形式にて実施し、実戦ゲームを通して技術の理解、ゲームコントロール等を評価し次期(平成 22 年度)AA 級候補者を推薦。(最終的に、男性 4 名、女性 2 名を 22 年度新規 AA 級審判員に推薦)

11. AA 級指名強化合宿(男性)

期日:平成21年4月25日(土)~4月26日(日)

場所:東京都内

講師:審判部指導委員会

参加者:AA級公認審判員から男性8名

内容:AA級公認審判員の中から次期国際審判員受験有資格者と平成21年度新規昇格者を指名し、審判技術の向上及び指導力の向上を目的とし、実技テスト、体カテスト、英文ルールテスト、英会話テスト、ミーティングを実施。(最終的に、男性1名をFIBA-ASIAレフェリークリニック受検へ推薦)

12. ヤングオフィシャルキャンプ・2009

期日:平成21年8月14日(金)~8月16日(日)

場所:埼玉県上尾市

講師:Petr SUDEK氏(FIBA/スロバキア)

審判規則部指導委員会

参加者:全国から25歳以下の日本公認審判員46名(自費参加)

内容:全国の若手公認審判員を対象に早い段階での上級・国際審判員への動機づけを行うと共に、基本的な審判法、ルールの確認、審判員としての心構えを指導。埼玉県内高校チームによる練習試合の実戦他、英会話講義、英文ルール、Petr SUDEK氏による講話。また団体生活を体験することにより、社会人としての生活ルール・マナー体得も目的とする。

13. 国際審判員研修会(兼トップカテゴリー研修会)

期日:平成22年1月9日(土)~1月11日(月)

場所:東京都内

講師:Nikolaos ZAVLANOS氏(FIBA/ギリシャ)

松崎康弘氏、小幡真一郎氏(両講師とも、財団法人日本サッカー協会より派遣)

審判部指導委員会

参加者:国際審判員を中心とした、AA級審判員

内容:「オールジャパン2010」の実戦ゲームによる実技研修、審判技術の向上及び判定基準、レフリーのマネージメント、ゲームコントロールの確立。外国人講師、外部講師及び審判部指導委員会、規則委員会による講義、DVD研修等で、日本のトップレベルの審判員としての意識・技術向上を目的とした講習会。評価員に対しても、(財)日本サッカー協会松崎審判委員長による評価基準の確立、指導方法などの講義を実施。

14. その他

1)大会指導・評価活動

審判規則部指導委員会によるインターハイ、ウインターカップ、国体、インカレ、オールジャパン等の国内主要大会での審判指導を実施。15年度より設置された審判スーパーバイザーによる、AA級審判員の公式戦(JBL、WJBL、インターハイ、国体、インカレ等)における評価の活動を行うと共に、全国ママさん交歓大会、日本スポーツマスターズ2009にも、開催県審判員に対する審判指導員の派遣を行った。

2)海外派遣

各国際大会への審判・コミッショナー派遣、男女各カテゴリー代表海外遠征の帯同、ユーロリーグ系キャンプ審判派遣、欧州男子選手権等の大会視察、FIBA や FIBA-ASIA からの要請による指名審判員・コミッショナー派遣等を実施。

3) 日本協会主催大会における審判員派遣

国民体育大会、全国中学校大会、全国教員大会、全日本総合選手権大会、JBL/WJBL 等、国内における日本協会主催大会への審判員や評価員、コミッショナーの派遣。

4) 各ブロック・各都道府県からの講師派遣

各ブロックや各都道府県から派遣依頼による、審判指導やT・O指導に関する講師派遣。

5) FIBA Basketball Rule2010」版の情報収集及び確認

FIBA-ASIA クリニックや海外派遣時、また、インターネット等で「FIBA Basketball Rule2010」版の情報収集や確認を行った。

(3) 公認審判審査

1. A級研修合宿(平成 21 年 5 月 9 日～平成 22 年 2 月 21 日)

全国 10 ブロック 10 会場で開催。

ブロックの審査委員は、関連するブロックの研修会に参加しA級審判の実状を観察する。

A級強化合宿へ推薦する候補者の資料を作成する。

2. A級強化合宿(A級フレッシュマン研修合宿)(平成 21 年 4 月 24 日～5 月 2 日)

東京(トヨタ府中スポーツセンター)で実施。

今年度、A級に昇格した全国の審判の実状を把握する。

3. 女性審判強化合宿(平成 21 年 7 月 17 日～19 日)

三重県営サンアリーナで実施

全国の女性審判の実状を把握する。

4. A級指名強化合宿(平成 21 年 9 月 11 日～13 日)

AA級候補者の実状を把握し、審査等の資料とする。

5. A級審査会

全国 10 ブロック 10 会場で開催。

ブロックの審査委員長と審査委員及びブロック審判長とでA級審判の候補者を選出する。

6. AA級審査会(平成 21 年 10 月 9 日～11 日)

東京で開催。

AA級候補者の評価を行う。

7. 審査委員会(平成 21 年 12 月 22 日～23 日)

事業報告、事業計画等

昇格、降格の審査を行う。

6. 施設、用具の認定

1) 施設・用具部会

- ① 日時:平成 21 年 5 月 8 日(金)14:00～〔岸記念体育会館〕
- ② 議題:マニュアル更新、業務取扱範囲、認定・証紙関係の現状把握

2) 施設・用具部会

- ① 日時:平成 21 年 7 月 27 日(月)14:00～〔岸記念体育会館〕
- ② 議題:検定工場会、検定品関係の現状把握と見直し等

3) 施設・用具部会

- ① 日時:平成 21 年 10 月 27 日(火)16:00～〔岸記念体育会館〕
- ② 議題:変更ルールに伴う 24 秒計の仕様(機能・操作等)打合せ

4) 検定工場会との意見交換会

- ① 日時:平成 21 年 12 月 14 日(月)17:00～〔上野パークサイドホテル〕
- ② 議題:検定工場会スタッフとの意見交換

5) 施設・用具部会

- ① 日時:平成 22 年 3 月 16 日(火)19:30～〔岸記念体育会館〕
- ② 議題:24 秒計の仕様(機能・操作等)打合せ

6) 施設・用具マニュアルの改訂等作業の実施

- ① 検定工場会メンバーによる改訂作業(継続)
- ② 部会メンバーによる改訂作業(継続)
- ③ 事故防止・安全マニュアルの追加作業(継続)

7) 国体等全国大会視察時の施設用具点検

- ① 競技会場の主要器具の点検
- ② 競技施設の安全確認

7. 総務

◆ 事業計画に対し、順調に進んだものとしては、

- 事務局の人的強化は進んだが、まだシンクタンク機能は十分ではない。
- 新登録システムの実稼動は、計画通り 3 月末に稼動した。
- 情報の公開は理事会評議員会では実行された。ただホームページのデータ等未解決のままである。
- 外部団体との窓口業務、登録推進、役員登録など対応が進んだ。
- 事務所の拡張も4階スペース確保で対応した。

◆ 現状解決できていない案件としては、

- 公益法人法変更への対応、80周年記念事業への取り組み、各種新たな諸課題への取り組みが出来ていない。

◆ 各種会議

- 04月08日 第一回理事会(東京)
- 05月20日 第二回理事会(東京)
- 06月14日 第三回理事会(小牧)東アジア選手権大会の開催に合わせ
- 06月23日 第四回理事会(東京)
第一回評議員会(東京)決算・事業報告等承認
- 07月05日 臨時理事会(東京)男子専任HC退任と倉石HC承認
- 09月09日 第五回理事会(東京)
- 10月03日 第六回理事会(新潟)国体に合わせ
- 10月03日 臨時評議員会(新潟)国体に合わせ 競技日程等承認
- 11月11日 第七回理事会(東京)
- 12月06日 第八回理事会(大阪)インカレに合わせ
- 01月22日 第九回理事会(東京)
- 02月17日 第十回理事会(東京)
- 03月20日 第十一回理事会(東京)
- 03月20日 第二回評議員会(東京)予算・事業計画等承認

8. 財務

1. 公益法人法変更に向けた準備として、コンサルタント会社主催のセミナー等に積極的に参加し、情報収集に努めた。とくに来年度に向け、コンサルタント会社を選定し、公益・一般各法人のメリット、デメリットの洗い出しならびに申請に向けたスケジュールを志向中。来期には次の対応を致したい。
 - (1)関係部会との連携による諸規定の改定や新会計基準(改訂)の取り込みは、コンサルタント会社と連携、作業対応する。
 - (2)前項作業と並行または先行も考慮しつつ、新会計システムの導入を推進。
2. 毎月定期的に大口支払、入金等をチェック・確認し、健全且つ円滑な資金収支に向けた体制整備を推進。来期は前述新会計システムの導入をもってさらなるきめ細かな管理を志向致したい。
3. 予算の策定と執行については、平成22年度予算案作成作業の過程で、今年度予算ならびに実績・実績見込を各部門・事業ごとに作成。事業費用支払については、原則事務局長、専務理事決裁にて推進。なお、決裁権限明確化については次期へ繰越し。
4. 中長期収支見通し作成による安定した財政運営の追求着手については、次期へ繰越し。

◆財務部年間予定は、次の通り推進。

- ・平成20年度実査(棚卸)・・・平成21年4月1日
- ・平成20年度決算(案)監査・・・平成21年6月初旬
- ・平成20年度決算(案)報告・・・平成21年6月中旬
- ・平成21年度中間監査(上期分)・・・平成21年11月中旬
- ・平成22年度各部予算案提出締め・・・平成22年1月上旬
- ・平成22年度各部予算案作成・・・平成22年2月中旬
- ・平成21年度実査(棚卸)・・・平成22年4月1日

9. 広報

平成21年度はFIBA世界選手権アジア地区予選であった「第25回FIBAアジア男子選手権」、「第23回FIBAアジア女子選手権」を筆頭に、愛知県小牧市で開催した「第1回東アジア選手権大会 兼 第25回FIBAアジア男子選手権大会 東アジア地区予選」、若手主体で臨んだ「第5回東アジア競技大会」、アンダーカテゴリーでは「第8回FIBA U-19女子世界選手権大会」、「第1回FIBAアジアU-16男子選手権大会」、「第1回FIBAアジアU-16女子選手権大会」、「第1回アジアユースゲームズ」など大会が目白押し的一年であった。

特に2年ぶりに国内開催した「第1回東アジア選手権大会 兼 第25回FIBAアジア男子選手権大会 東アジア地区予選」は「第25回FIBAアジア男子選手権大会」出場が懸かる重要な大会であるとともに、東アジアサブゾーンで開催される初めての選手権大会であったため、東アジアサブゾーン協会との連携を密にしながら開催地の愛知協会と共に大会広報活動を実施した。バスケットボールが盛んな愛知協会は人材・体制共に大会運営に長けており、広報においてもロゴや印刷物など製作物全般において愛知協会広報担当者が尽力され、大きな力となった。

さらに、「第1回東アジア選手権大会」で出場権を獲得した、「第25回FIBAアジア男子選手権」、「第23回FIBAアジア女子選手権大会」には広報担当者を現地派遣し、現地から大会結果配信、現地取材の対応、試合中継の対応を実施。加えて、今年度から新設した日本代表公式サイト掲載用に日本代表が出場した全大会に専用ライター・・・カメラマンを大会へ派遣し、公式サイトにて日本代表の活動・試合の様子を記載した。

また、各種別全国大会においては広報部員を中心に広報活動を実施。全国ママさん大会やインターハイには広報部員を現地に派遣し、開催地での広報活動の推進を行った。なお、各種別全国大会への広報部員派遣は、これまで暦年の現地派遣により広報活動が普及したため、今年度を区切りにもその役割を終える予定である。

「第38回全国高等学校選抜優勝大会」、「第23回都道府県対抗ジュニア大会」においては各種別の日本協会広報部員が中心となり大会広報を実施。「第85回天皇杯・第76回皇后杯」においては日本協会広報部員にて大会広報を実施した。

1. 広報活動の充実

①国際大会(派遣)での日本代表広報対応

- ・第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会
- ・第23回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会

②国際大会(日本開催)での大会広報・報道対応

- ・第1回東アジアバスケットボール選手権大会 兼 第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会
東アジア地区予選

- ③国内大会における広報担当者の大会派遣
 - ・全国ママさん大会・インターハイへの広報担当者派遣
- ④記者会見の実施
 - ・男女日本代表チーム・代表候補選手関連
 - ・第1回東アジアバスケットボール選手権大会関連
 - ・国内大会関連

2.報道対応

- ①報道関係者のニーズに合わせた情報提供・プレスリリースの配信
- ②各媒体運動(スポーツ)部、テレビ媒体ニュース担当、事業担当との積極的コンタクトとプロモーション
- ③記者会見・記者懇親会の実施
- ④理事会・評議員会の公開対応

3. 公式サイトへの対応

- ①日本協会公式サイト(<http://www.jabba-net.com>)の対応
- ②日本代表公式サイトの新設

今年度より日本代表公式サイト(<http://jabba-net.com/japan>)を新設。男女全カテゴリーの国内合宿での通常活動ならびに出場した大会での試合結果や現地の様子を公式サイトにて紹介した。なお、男女日本代表チームの出場大会(東アジア選手大会(男子)/FIBA アジア選手権/東アジア競技大会)にはライター・カメラマンを大会へ派遣し、情報収集並びに取材活動を実施した。
- ③各種大会特設サイトの作成

jabba-net.com ページビュー実績	ページビュー総数	一日平均
2009/4/1 - 2010/3/31	7,391,936	20251.9

4. 広報部会の実施

広報部・委員会を組成しオールジャパン大会運営を中心に部員相互の情報の共有化を図り、各種大会の準備、担当者の決定等、円滑な業務遂行に努力した。

10. 普及編成

1. 障がいを持つ人のバスケットボール団体

日本車椅子バスケットボール連盟・日本車椅子ツインバスケットボール連盟・日本デフバスケットボール協会(聴覚障がい者のバスケットボール団体)いわゆる障がいを持つ人のバスケットボール団体に対し、等しくバスケットボールを愛好し追求する仲間として、日本バスケットボール協会がどういう形で連携し支援活動を実施しては良いかを検討致しました。

各団体に対し率直にヒアリングを行ない、又各都道府県バスケットボール協会及び9連盟に対しても、これらの団体との係わり合いについてアンケートを実施し、その対応策を纏めました。理事会では、日本車椅子バスケットボール連盟は寄付行為に準拠する資格を有する事の理解は得られましたが、登録料の免除が議論の及ぶ所と

成り、再度各都道府県バスケットボール協会及び9連盟に意見を伺いましたが、多くの賛同は得られたものの、ご意見の中には尊重し、かつ参酌すべき点があり、更に検討の上次の支援対策について理事会に諮り承認されました。

<支援協力対策>

1)各団体の主催大会に於ける選手権大会に対し(財)日本バスケットボール協会は共催として参画し、会長杯、賞状の授与を行い表彰する。

- ①日本車椅子バスケットボール選手権大会
- ②日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会
- ③全国デフバスケットボール選手権大会
- ④FIDジャパン・チャンピオンシップ大会

2)各団体の各種事業に対する後援名義の貸与

3)各団体主催の活動に対し、各都道府県協会及び連盟の協力を得て次の活動に協力及び支援する。

- ①審判の技術指導・審判講習会への講師派遣
- ②指導者育成講習会への講師派遣
- ③チームへの技術巡回指導
- ④各種普及活動への助力
- ⑤(財)日本バスケットボール協会主催大会に於ける障がいを持つ人の観戦や入場に配慮する。

2. スリーオンスリーバスケットボール大会の開催

22年度は(財)日本バスケットボール協会創立80周年を迎える事になり、その記念事業の一環として、平成22年8月15日に大阪市に於いて、「オールジャパンスリーオンスリーバスケットボール(JA B 33)2010インオオサカ」の名称で開催する企画を検討した。

3. フレッシュ・マイクロミニバスケットボール指導マニュアル作成

プレゴールデンエイジ(フレッシュ:U-10、マイクロ:U-8)の指導について、全指導者の共通理解をはかる。

この時期にどのような育成・指導を行うかについての指針を明確にする。

ミニバスケットボールの指導を行う全指導者に配布。

1 1. 企画(事業・企画)

1. <日本代表関連・国際大会>

①『第25回FIBA男子アジア選手権大会 兼 第1回東アジアサブゾーン選手権大会』

・開催概要 開催地:愛知県 小牧市

大会期間:平成21年6月10日(水)~6月14日(日)

・「東アジアサブゾーン予選」を日本で行うことにより、開催地のアドバンテージをもって、FIBAアジア男子選手権の出場権を獲得することができた。

- ・国際大会を国内にて開催することにより、多くの方々にアリーナへ足を運んでいただく事ができ、ファンの拡大にもつながった。
- ・オフィシャル・パートナーズへの露出の確保を行った。
- ・オフィシャル・パートナーズへのケア体制を強化し、持続した支援を受けるための施策を実施した。
- ・開催県協会(愛知県協会)ともに大会運営に携わることにより、運営上の発展に寄与することができた。

2. <<大会関連・国内大会>>

①JOMOウインターカップ2009 第40回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会

- ・開催概要 開催場所:東京体育館メインアリーナおよびサブアリーナ
大会期間:12月23日(祝・水)~12月29日(火)
- ・インターハイ決勝進出チームが参加することにより、男女各50チームが出場する、とても大きな大会となった。
- ・昨年に引き続き、株式会社ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング(以下、J SPORTS)との交渉を担当し、全100試合テレビ放映を実現させることができた。男子準々決勝以降および女子準決勝以降についてはライブ放送を実施した。
- ・会場運営においては、警備会社に会場の運営を任せ、会場運営の向上を行った。
- ・20年来据え置いてきた入場料金の改定を実施して2年目となったが、有料入場者数は昨年を大幅に上回る結果となった。
- ・次回大会に向けて、常に満員の観客が入った状態で出場チームに最高のプレーをしていただけるよう運営に努力するとともに、テレビ放送規模拡大など新たな取り組みに着手し大会全体を発展させる方策を検討する。

②第85回天皇杯第76回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会(オールジャパン2010)

- ・開催概要 開催場所:東京体育館(1~3回戦)、国立代々木競技場第一体育館(準々決勝以降)
大会期間:2010年1月1日(金)~1月11日(月・祝)
- ・前回大会同様、メイン会場を国立代々木第一体育館としたが、大会開催カレンダーとの兼ね合いもあり、有料入場者は前回大会を下回る結果となってしまった。
- ・また、昨今の経済状況の影響のため、協賛金収入も昨年を下回った。
- ・AJ2011開催にむけて、4面同時進行体制の解消等、大会運営に関わる部分に於いて希望がでており、対応する必要がある。

3. <<事業の構築>>

①マーケティングシステムの確立

オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤー、サポーターティングカンパニーなどマーケティングスキームの確立を目指した。JBAとしては一貫した体制が取れておらず、全体的な取組の必要性がある。

- ・日本代表チームのロゴマーク、エンブレムなどの整備と運用
- ・日本代表チームの肖像権などの整備と運用
- ・登録競技者の肖像およびJBA主催大会の映像使用などの整備と運用の準備

②日本代表チームのコンテンツ価値向上

日本代表チームのコンテンツ価値を高め、新しいビジネス機会を創出する活動を行った。

・日本代表チームのエンブレム・ロゴの管理、運用。

・日本代表チームのマーケティングプログラムの実施

オフィシャルサプライヤー:男女共通 (株)アシックス

サポーティングカンパニー:男女共通 (株)モルテン

サポーティングカンパニー:男女共通 日本航空

サポーティングカンパニー:男女共通 セノー(株)

・国内で開催した日本代表戦でのエンブレム・ロゴおよびスポンサーの露出拡大

③JBA主催各種全国大会への支援体制強化(オールジャパン、ウインターカップ以外)。

・JBAが主催する全国大会のオフィシャル・パートナーズの獲得、およびオフィシャル・パートナーズへのケア体制を強化し、継続した支援を受けるための施策を行った。

・JBAが主催する全国大会オフィシャル商品のライセンス販売および管理を行った。

④JBAが主催する公式活動への支援強化

・エンデバー活動のオフィシャルパートナーズへのケア体制を強化し、継続した支援を受けるための施策を実施した。

・通年の広報活動に連動したプロモーション活動の実施。

4.《委員会の設置》

国際大会を国内にて開催するにあたり、2つの委員会が設置された。

①国際親善試合実行委員会

・国際親善試合開催にむけ、開催地の募集を行った。

・国際親善試合が円滑に運営できるよう、委員会にて、開催地との調整、各種業者の選定、対戦相手との交渉、を行った。

②2011年FIBA アジア女子選手権大会招致委員会

・2011FIBA アジア女子選手権大会を国内に招致することによって、女子日本代表のロンドンオリンピック出場を磐石のものにすると共に、国内でのバスケットボールムーブメントの醸成を図る。

・大会開催実績を開催地協会の財産とし、今後のバスケットボールの更なる普及につなげる。

・JBA 内に招致委員会を発足させることにより、2011FIBA アジア女子選手権大会の大会開催の招致を成功させる。

・委員会は、関係部門の代表者が委員メンバーとして集まることにより、総力を集結させて大会招致活動を行う。

5.《企画部として》

企画部としては、更なる価値の向上、収入の増加を目的に活動を行った。今後は、JBA 企画部として、各諸権利関係の見直しなどを整備し、将来に向けた事業スキームの再構築が必要になってきている。

また、新たにJBA 主催大会、また国内における国際大会の運営に関して、事業のみならず運営面での体制構築が必要であり、今後取り組んでゆきたい。

1 2. 特別委員会

1. 創立80周年記念事業委員会

平成22年度、JBA創立80周年を迎えるにあたり、記念すべきこの年を、JBAにとってどのような1年にすべきか、80周年の節目として、未来に向かっての新たなステップとし、過去の歴史を懐かしく振り返ることだけにせず、JBAとして歴史を示唆に富んだ未来への道標として捉え、新たなステージの扉を開く契機として、JBAが行っている様々な事業をもっと広める事や新たな取り組みなど、80周年記念事業として実施する為、平成21年度より準備活動を行った。

① 80年史・記念誌部

・80年史・記念誌部会の開催

開催:2回、ワーキング:随時開催

・委託業者の決定

数社へ打診し、委託業者として「日本文化出版」へ決定

・80年史構成

50年史以降の30年を年史として構成

80年史発行:平成23年3月

・記念式典用記念誌の作成

平成22年9月12日記念式典用簡易版80年史を作成し、式典にて配布

② 記念式典部

・開催日程・会場の決定

開催日時を、アンケートなどの実施で、平成22年9月12日(日)に決定、場所は、各ホテルへの見積りなどから、グランドプリンスホテル新高輪 大宴会場「飛天」と決定した。

・記念式典の実施

記念式典部にて、式典開催に向け計画及び実務運営を行っていく。

詳細に関しては、新年度に検討することとした。

2. トップリーグのあり方検討委員会

平成20年12月より、当委員会をスタートさせ、平成22年3月20日理事会・評議員会において、当委員会の答申ならびにリーグ規程の承認を頂き、その上で、男子国内リーグにおいてJBA管轄外であったbjリーグ(リーグ、チーム、選手)のJBAへの登録承認をすることとなり、JBAとして新たな次世代のトップリーグ創設へ向けて、次のステップへと土台を築くことができ、当委員会としての役割を終了する事ができた。

今後は、答申に基づき次世代トップリーグ創設にあたり、具体的なリーグ構造や参入チームの決定に向け、JBLやbjリーグおよび両リーグ加盟チームへ、JBAとして準備組織や両リーグ連絡協議会などを通じ対応して行かなければならない。

強い日本のバスケットボール、常時オリンピック競技大会・世界選手権大会に出場する日本代表チームの強化に向け、次世代型トップリーグ創設の準備へと取り組むこととなる。

- 当委員会提案および承認事項
 - ・ 答申「次世代型トップリーグの創設」(平成22年3月20日承認)
 - ・ JBA「次世代型トップリーグのあり方と創設へ向けたプロセスについて」(平成22年3月20日承認)
 - ・ 財団法人日本バスケットボール協会「リーグに関する規程」(平成22年3月20日承認)
 - ・ JBA-JBL覚書、JBA-bjリーグ覚書(平成22年3月20日承認)
 - ・ その他
 - 「国際バスケットボール連盟」(FIBA)会則・内規 訳文
- 検討委員会活動報告
 - <検討委員会>
 - 全開催回数 13回(内平成21年度9回)
 - <ワーキンググループ>
 - 全開催回数 17回(内平成21年度10回)
 - ワーキンググループ合宿 1回
 - <JBL・bj「チームヒヤリング調査」の実施>
 - 平成21年7月～9月(4箇所)
 - <JBL代表者会議(説明会)>
 - 平成22年2月24日
 - <bjリーグ代表者会議(説明会)>
 - 平成22年3月20日

3. 倫理・行動規範制定委員会

- ① 「行動規範」:平成21年10月3日開催の理事会(新潟)にて制定。
- ② 「倫理規程」:平成22年1月22日理事会(東京)にて制定。

4. 環境委員会

- 1) 「環境委員会」(特別委員会)設置…委員長:木内専務理事(平成21年4月1日付け)

※委員会設置趣旨

国際オリンピック委員会(IOC)、(財)日本オリンピック委員会(JOC)では、環境変化が世界規模で想像以上に進行している現状を踏まえ、「持続可能な循環型社会を創らなければならない。」ための取組みにスポーツの世界からの動機づけが必要との認識から、環境保全のメッセージを伝える等、各種の環境保全のための啓発活動を進めている。(財)日本バスケットボール協会としても趣旨に賛同し協働するもの。

- 2) 環境省「チームマイナス6%」メンバーへの登録

※その後「チャレンジ25キャンペーン」に切り替え

- 3) 主催大会プログラムへの環境取組みメッセージ掲載及び会場内への横断幕・ポスター掲示

※全日本総合選手権大会、全日本社会人選手権大会、全日本実業団選手権大会等

4) 環境関連イベント実施

※第1回東アジア選手権(小牧市)・・・環境コーナー設置

※JBLファイナル、レギュラーシーズン・・・「チャレンジ25キャンペーン」協働パネル掲示他、各会場内で環境保全活動協力の呼びかけ(含む、TV放映時)

5) JOC主催担当者会議、セミナー等への参加

※6月;ナショナルトレーニングセンター、12月;福岡市

5. 危機管理・法務等検討委員会

9月9日、新型インフルエンザ流行に伴う緊急対策について総務・競技運営部、並びに医科学研究部連名で、全国の各協会・競技団体・リーグに対し、対応策を明示した。

6. オールジャパン検討委員会

1) 委員会の目的

①JBAとして設立 80周年を迎えるこの年に、最も権威ある大会の更なる価値の最大化を目指し、かつ国内における競技力向上に寄与し、統括団体としての使命を果たしゆく為に、オールジャパンの抜本的な見直しも視野に入れ、今後のさらなる大会価値向上の検討を行う。

2) 委員会メンバーについて

①広く意見を集約するために、メンバーは各加盟団体、地方ブロック、学識とさまざまな分野から構成した。

②委員会構成

	所属団体	役職	氏名	
委員長	JBA	副会長	伊藤 善文	#
委員	JBA	(AJ 2010 実行委員長)	今 豊	*
委員	JBA	事務局長	松岡 憲四郎	*
委員	JBL	専務理事	吉田 長寿	*
委員	JBL2	JBL2 事務局	川島 健太	
委員	WJBL	WJBL 事務局	安達 宣郎	
委員	全日本大学連盟	理事長	林 直樹	
委員	日本実業団連盟 (全日本社会人選手権)	理事長	羽角 国広	#
委員	日本クラブ連盟 (全日本社会人選手権)	会長	稲垣 進司	#
委員	全国高体連	副部長	品田 奥義	#
委員	地方・ブロック	北海道	森野 和泰	

委員	地方・ブロック	三重県	土田 正文
委員	地方・ブロック	鹿児島県	鮫島 俊秀
委員	学識	—	杉山 茂

3) ワーキンググループ

①検討委員会への事前の調査、議題や検討事項など、事務的機能を果たすために、ワーキンググループを設置。

②ワーキンググループ構成

委員	JBA	(AJ 2010 実行委員長)	今 豊 *
委員	JBA	事務局長	松岡 憲四郎 *
委員	JBL	専務理事	吉田 長寿 *
委員	JBL2	JBL2 事務局	川島 健太
委員	WJBL	WJBL 事務局	安達 宣郎

[注釈] #印:JBA理事、*印:JBA特任委員

4) 活動報告

①検討委員会

- ・第1回検討委員会 平成22年1月22日(金)12:00~@国立代々木体育館会議室
- ・第2回検討委員会 平成22年2月16日(火)12:30~@岸記念体育会館103会議室
- ・第3回検討委員会 平成22年3月10日(火)12:30~@岸記念体育会館505会議室

②ワーキンググループ(WG)

- ・第1回WG 平成22年2月3日(水)18:00~@岸記念体育会館103会議室
- ・第2回WG 平成22年3月8日(月)14:00~@JBA会議室
- ・第3回WG 平成22年4月15日(木)15:00~@JBA会議室

5) 今後の活動について

- ・平成22年6月9日理事会にて答申書の提出を目指し、今後も活動を行ってゆく。

以上